

針葉樹会報

第 128 号
2013 年 12 月



目次

古希の山旅——仙丈ヶ岳紀行	齋藤
黒部源流山行	中村
となりの里山	
鹿島槍ヶ岳	
岡山県矢掛町暮らし	金子
廻り目平山行	前神
学生 O-B 合同合宿の総括	
金峰山越え	
茂来山紀行	中村
ボルダリング体験	吉川
廻り目平合宿懇親会	藤原
飯盛山	中村
学生の感想	藤原
長島弘賢／伊藤久裕	吉川 雅明 浩
菊田果琳	萌子 雅明 朋信 晋平 雅明 浩
会務報告	
平成 24 年度針葉樹会総会	
90 周年記念事業実施報告と今後	
会員の近況報告抜粹	
三月会通信	
芦安登山道整備作業報告	
小島 和人	
編集後記	
撮影・中村保	
表紙写真＝南チベット、タラ・リ（打拉日）山群 6000m 峰の東面と哲古湖（4600m）。湖岸はヤクの牧草地	
40	38 31 30 27 25
24	22 20 20 18 17 15
13 11	5 2

発行日 2013 年 12 月 10 日

発行者 針葉樹会
(会長 竹中彰)

印刷所 ヤマノ印刷㈱

針葉樹会報
第 128 号

編集人 小島 和人
〒241-0817
横浜市旭区今宿 2-60-1
会報幹事／小島和人、井草長雄
川名真理

古希の山旅——仙丈ヶ岳紀行

……その長くたおやかな地蔵尾根を行く

齋藤 正（昭42年卒）

一昨年秋、黒戸尾根から甲斐駒を経て北沢峠経由仙丈ヶ岳より地蔵尾根を一気通貫し、市野瀬に下りるという計画を立てた。言うほど大袈裟な事ではないが、後半部はあまり記録にも登場しないルートでもあり、少し気取った言い方ながら、年寄り登山には面白いコンセプトということで内心期するところがあつた。残念ながらこの企図は甲斐駒で大雨に祟られ、北沢峠で断念という破目になつた。ところがその後、農作業中に足親指の爪剥離という故障を生じ、永らく未完の穴埋めをする機会を失つていたが、ようやく故障も癒えリベンジの山旅に出た……曰く『古希記念』。

今更単純に北沢峠から繋ぐのも気がそびれ、ならばと、反対に市野瀬から地蔵尾根を登り、最近ほとんど使われないという丹渓新道を下るという計画を立てた。このかつての

栄光ある新道は、八丁坂を上り北沢から仙丈ヶ岳に登るくらいなら、戸台川から高度感をたのしみつつ一気に仙丈ヶ岳を襲うとう、かのちょび髭・ベレー帽の丹渓山荘の主人ら長谷村の方々が拓いた素晴らしい尾根道である。いまや登る人も極めて少なく、ましてや下る人は更に少ないと言う。だからこれも年寄りにはある程度チャレンジングであり、何と言つても人が少なく静かというかけがえのない価値が予想された。こんな事を言えるのもせいぜいここ1、2年。以下の課題も考慮し、自分の体力とリスクテイクの制御の内と判断した。そして最低3日は晴れが続くと容易にわかるという最高の気象条件が訪れた。

このルートの課題は、
①長大な尾根と1900mの単純標高差……
1日目
②いつでもツェルトでピンチを凌ぐ準備と覚悟……1日目
③ルートファインディング……人の少ないルートはこれが難題……両日
④孤独という圧力……孤独は思い込みの源……などである。

とりわけ一日目は——途中の無人小屋（松峰小屋）に泊まるか、更に上部に行きビバークするか、登りきつて仙丈小屋まで行くか、

はたまた途中から戻るかを見極めねばならない。松峰小屋まで6時間以上かかったときは松峰泊。5時間半余で行き、なお体力があれば更に登り途中ビバーク。体力が残り、17時前に登り切れれば一気に……というのが攻め方と考えた。

9月19日 晴れ。登山届け提出。仙流荘泊。

宿泊者二組。風呂良し。食事まあまあ、量多し。部屋狭し。この日、旧暦8月15日。中秋の名月にして、翳り一つなし。少しづつ気分盛り上がる。

登高前の前夜胸音夜氣を打つ

9月20日 快晴。宿で朝・昼のお結びを貰いうけ、妻の運転する車で登山口の柏木部落へ。暗くて部落への入り口を見失つて、三峰川上流方面と大鹿方面の分岐まで行き戻つた。この辺りでは登山者などよりパワースポットとかの分杭峠に人気があり、幟も旗もそればかりだ。伊那里的孝行猿資料館の古びた小標識を見つけ橋を渡り急坂を上つて登山口の水道ポンプ小屋に。何と地元の好意で出来た小さな駐車場に先人の三河ナンバーが1台。トレールランの人とすぐわかる。実はこのルート、昨年日本アルプス縦断トレールラ

仙丈ヶ岳と地蔵尾根（右）を臨む



ンの1コースとなつた所。彼等は5時間程で登つたという。

5時50分出発。気温高し。満月の光が背に降りかかるつくるようで、贅沢な気分である。

満月も負いて登高第二歩

予定を20分遅れた。3リットルの水、数個のジュレが重い。総重量およそ13キロほど。いきなり立派な林道と寂しい登山道に目の前で分かれる。朽ちそうな仙丈岳の標識が林道の脇にありそれを辿る。注意が必要だ。そこにはより立派な“熊出没”的看板もある。確かにその後フットプリントをいくつも見た。遅れ挽回のため飛ばす。松峰までの標高差は900mしかないが距離が長い。途中林道を何度も横切るが、林道にとらわれず木製のあくまで地味な標識を信じて真直歩く。

(たぶん)4つ目の林道で、登山道は遂に林道に重なる。暫し林道を歩くと道は二手に分かれ、右に旧いしつかりした道、左に新しい掘削したばかりの道に分かれる。冷静になるため、朝飯を食いながら何度か右の旧い林道を探すが道が見当たらない。左の新しい林道を探るとクレーン掘削機があり、尾根筋と見られるところに赤布を発見し、これを行く事にした。

急登暫し、尾根筋の伐採跡に1983m地の三角点を発見。自信を得てかすかなトレースと赤布を辿りつつ行くと突如両方を見失つた。そのまま稜線を辿ると突如森林の急崖になり、あわを食つて稜の右に右にと修正するとトレースに出た。地図に「松峰」とある手前と見られる。ぼっこりとした松峰をトラバース気味に行くと鬱蒼とした苔と倒木の平があり、朽ちんばかりの作業小屋があつた。ここでまたしても道を失うが、先の教訓で尾根の右側に道があると信じ探すと首尾よく発見。暫し登ると松峰小屋の標識に出会つた。ルートの不明確はここまで。標高2050m。10時20分。所要4時間半と、ルートファインディングのロスはあつたが、挽回した。ここで2回目の朝飯を摂り、頭を冷やす。素朴なおにぎりを嗜み締める。

伊那人の実直芋茎のにぎり飯

結論は松峰には泊まらず更に登り極力仙丈小屋を目指すというもの。ここから標高差1000mで、ほぼ稜線にそつた森林帯を行く。途中先客のトレイルランの若者二人と出会い。出合つたのはこれだけ。すぐ急登が始まつ1時間余、地蔵岳を過ぎる。ピークは道の右上部にあるが、バスした。ぐんぐん登り、

地蔵岳の丸い形が可愛く見える頃、三峰川最上流部に沿つて地蔵尾根に伸びる丸山からの尾根を合わせる。やがて岳樺帶となり、よく見ると沢を登った人の赤布が右下に見える。

記録を見ると三峰川は沢登りと釣り人の記録がいくつかあり、こうした人たちが最後に尾根に合流する所であろう。

ここで森林帯は終り、一挙に仙丈、大仙丈、

仙塩尾根そしてその後ろの大パノラマが視界に入る。この辺りでベースは大分落ちた。ゆつくりと昼飯を摂り、大休止。塩見岳へ続く大

稜線、秋光の下をうねり行く三峰川の大蛇行や伊那里のまつたりとした姿を目の下に自分一人……気分は王様だ。

爽涼や南ア全山掌の上に

山稜に頬撫づる風秋の声

秋彼岸伊那深谷に煙波かな

今日中に登りきる確かな目処を得た。水を

充分飲んで重量を減らす。急な小さな登りを

繰り返し、潜り込むとビーグ心地の良さそ

うな這い松の稜を過ぎると遂に馬の背分歧に到着。時に16時丁度。甲斐駒や早川尾根、八ヶ岳が加わった夕景を楽しみ、ビーグは明朝に残し、仙丈小屋に下る。16時20分。小屋の広場で雲ひとつない贅沢極まる景色を堪能し

た。諸条件に恵まれ、なお幾許の余力を残し得た一日に満足した。ちょうど10時間半。夜、外に出て星と月の山々に魅了さる。

六方石直下、かつて辿つた戸台川本谷の花崗岩の谷がまばゆいほどだ。鋸岳の筋骨隆々の衛士が頼もしい。十六夜の月に負けず、エチオピア王一族の星達が天空を踊る。

黒駒の谷弥白く月の影 月影のカールに天馬舞う如く

9月21日 快晴。5時25分仙丈ケ岳頂上で日の出を仰ぐ。やがて「東の野に……」の歌の風景そのままとなる。歓声上がる。甲斐駒を最左翼に、間ノ岳を最右翼に富士と北岳を真ん中にご来光の写真(スマホ)を試みるが、いまいち。既に仙塩尾根を下る若者あり。この尾根も人気が出てきたようだ。

木曾駒に月落ち富士にご来光

今日は途中に登りきる確かな目処を得た。水を充分飲んで重量を減らす。急な小さな登りを繰り返し、潜り込むとビーグ心地の良さそ

うな這い松の稜を過ぎると遂に馬の背分歧に到着。時に16時丁度。甲斐駒や早川尾根、八ヶ岳が加わった夕景を楽しみ、ビーグは明朝に残し、仙丈小屋に下る。16時20分。小屋の広場で雲ひとつない贅沢極まる景色を堪能し

には途中2箇所に鹿避けネットが張られていて、それを開閉しつつ行く。

順調なのはここまで。以後悪戦苦闘の3時間余となる。荒れた道筋は先刻承知であったが、前週の台風もあり、ルート選択は予想以上に困難で、あれだけ警戒していたのにルートを誤つた。冷静に余裕を持つて失敗をこなしたつもりだが、時と場合によっては極めて危険なので、自戒をこめてやや詳しく記そう。

二つ目のネットをクリヤーするとその先に独標らしきピークがあるが道はやや手前から稜を降り氣味に右手から巻く(よう見えた)。ここで滅多やたら踏み跡のようなものがあり苦労の末、左に赤布一つと虎ロープを見。ならばその下近にトレースがあるはずと思い、どうにかそうと思われるものをしゃにむに下るとやがて一切トレースらしきものがなくなつた。標高2500メートル付近。GPSが旨く作動しない。どうも誤つたようだ。必死にトレースを探すが見当たらぬ。

ここで考えた。戻るのも容易ではないし、戻つても怪しげなトレースの中の虎ロープである。虎ロープはここから先左に入るな……というシグナルと思い探索をやや右に切り替えた(これが間違い)。もつと右には平右衛門沢があるので、大きな沢が予期できたら左に

修正し、岩や、浅くとも沢筋は避け、尾根ら

しいところを下れば、この範囲内にトレースは発見できると思つた。倒木と苔深い尾根を右に左と搔き分け、小さな沢を横ぎり時間はかかつたが順調に下つた。時折恋鹿の甲高い声がする。そうこうしているうち下からバスの音が聞こえてきた。

ぐんぐん下つてやはり尾根を一本間違えた事が判つた。降りたのは平右衛門の左手の小尾根で、自動車道のまん前の伏流放水施設のあるところ。標高1850m、時間11時50分。およそ1時間余のロス。サングラス1個、ステッキ1本を消失。ここから道路を30分ほど歩き、やがて歌宿手前でバスを拾つた。乗つてすぐ正規の下山口（登山口）を過ぎた。13時30分仙流荘。下山届け提出。

後でわかつた事だが、付け加えたい。

①この新道は登りに使う方が良さそうだ。独標辺は下つてくるとわかりづらい。下りの記録が殆どないのもそのせいか（最近、バスは途中止めて乗られるようになった）。

②鹿ほかの獣道とネット張りの人の踏み跡が縦横にあり上からだと何もガイドがない。③登りも下りも岳権の途切れる独標辺が分かれ目。そこに標識はない。あくまで稜線を外さない。（虎ロープを寧ろまたぐように…）

：下を行かずに……）

④何気なく書いたが体力消耗度は相当である。全く気は抜けない。

これを書くに際しては伊那市長谷支所の方の、この道をよく知る人の教えを賜つた。御礼申し上げる。ご親切にも今度新道を登る時は、上記標識等の改善をしようと言つてくださつた。ご期待あれ。

2日目の失敗はあつたが、運と冷静さと頑張りで切り抜けられ、古希記念の最高の気分を味わつた。はじめに考えたルートの課題は、よくも悪しくもの中したと思う。

下山後、仙流荘の温泉で汗を流し、帰途、何十年ぶりかの高遠蕎麦を妻と味わつた。

この山行は、無理を言つて芦安作業をサボタージュして行つた。感謝申し上げる。また迷惑拙句にご容赦を。

身を去らぬ下山の搖らぎ蕎麦に噎す
山下りて繙く記憶草の花
猿ともいわれしが杖に秋の山

黒部源流域山行（赤木沢廻行・裏銀座縦走）

中村 雅明（昭43年卒）

4年前の夏、小島さん、川名さんとの朝日連峰縦走からの帰りの列車で赤木沢廻行が次の目標となりました。ところが3年前は悪天の為、赤木沢を断念し、薬師沢小屋から雲ノ平に登り、高天原温泉—岩苔小谷—双六小屋—新穂高温泉と歩きました。2年前は快晴の絶好の沢登りの前夜、薬師沢小屋で夕食時に中村が悪酔し部屋に戻る時に転倒し頭を打つたので、翌日大事を取つて山行を中止し断腸の思いで折立に下りました。昨年は3度目の正直と張り切りましたが、出発直前の天気予報が絶望的な悪天予想の為、山行を中止しました。こうなると赤木沢は止められません。意地でも遡りたい執念の沢となりました。

今年は力強い前神さん、兵藤さんが参加、また山岳部4年の小宮山、町田両君も参加し賑やかな顔ぶれでめでたく赤木沢を廻行できました。延長戦で小島、川名、中村の3人は烏帽子小屋までの裏銀座を縦走し、充実した

黒部源流山行を締めくくりました。

メンバー＝小島和人（昭和40年卒）、中村雅明（昭和43年卒）、前神直樹（昭和51年卒）、兵藤元史（昭和52年卒）、川名真理（昭和63年卒）、小宮山尚与志（山岳部4年）、町田広樹（山岳部4年）

行程＝8月2日 新宿（23:30）夜行バス（金

沢・富山バス、WILLER EXPRESS）

8月3日 富山（5:50～6:20）—（タクシー）

— 折立（7:10～20）— 二角点（9:31～43）

— 太郎平小屋（12:20～13:00）— 薬師沢小屋（15:10）【泊】

8月4日 薬師沢小屋（5:06）— 赤木沢出合

（7:20）— 赤木沢源頭（12:13～55）※兵

藤、小宮山、町田は太郎平へ— 中俣乗越

（13:00）— 黒部五郎岳・カール分歧（15:35）

— [黒部五郎岳往復（15:35～16:15）— 黒

部五郎岳・カール分歧（16:20）— 黒部五

郎小舎（19:00）【泊】

8月5日 黒部五郎小舎（5:25）— 二俣蓮華

小屋（6:20～9:10）— 鶴羽岳（10:58～11:10）

— ハリモ岳（12:10）— 水晶小屋（13:40）

【泊】

8月6日 水晶小屋（5:40）— 東沢乗越（6:20～30）— 真砂岳先（8:36～45）— 野口五

郎岳（9:30～53）— 二ヶ岳先（12:58～13:20）

— 鳥帽子小屋（13:55）【泊】

8月7日 鳥帽子小屋から鳥帽子岳・鳥帽子四十八池往復（5:30～8:25）鳥帽子小屋

（8:40）—（アナ立尾根）— 高瀬ダム（12:20）

登山終了

大町温泉郷—大町から帰京

行動概要

8月2日（金）晴れ

今年は7月中旬に『梅雨明け宣言』が出た後から7月末まで雨模様の天気が続きました。特に北陸地方は大雨に見舞われたので折立までの道路が心配になり、富山からのタク

シーを予約した前神さんがタクシー会社に問い合わせたところ、大丈夫とのことで安堵しました。天気も出発の2日前に回復し、8月

10日頃まで好天が続く予報に意を強くして新宿西口23:30の夜行バスで富山に出発しました。バスは予約を中村、前神が分担したのでA車（小島、中村、小宮山、町田）とB車（前神、兵藤、川名）と分かれました。

8月3日（土）晴れ後曇り後晴れ

6時前にA車が富山駅前に到着。ほどなくB車も到着、全員揃いました。駅周辺は青空が広がり入山日和と喜びました。6:20前神さんが手配したジャンボ・タクシーで折立に向

けて出発。7:10折立着。駐車場は車が一杯、登山者も溢れています。朝晴れていた空は曇り、小雨がぱらつく予想外の天気模様が気掛かりです。7:20登山開始。過去2回よりずっと多い登山者に道を譲りながらゆっくり登りました。三角点の手前で天気が好転、青空が広がり安心しました。ここで学生さん2人は兵藤さんの勧めに従って太郎平小屋から薬師岳を往復する為に先行しました。12:20太郎平小屋着。コースタイム通りです。

13:00 薬師沢小屋に向けて下りました。来る度に道が良くなっています。ほぼコースタイムで15:10薬師沢小屋に到着しました。小屋は土曜日の為か、かなり混雑しています。上下2階の頭がつかえそうな下の階に入れられましたが、一人あたり布団一枚で良い方です。荷物整理の後、中村以外の4人は小屋の外でビールで乾杯。中村は2年前の失敗からコーラで我慢しました。小屋前を流れる黒部川の水量はそれ程多くない感じで安心でしたが、翌日思い違いだったことを思い知らされました。薬師岳を往復した学生2人が17:20に薬師沢小屋着。小屋に入らず、黒部川の河原でツェルト・ビバークです。夕食後、明日の沢登りの準備をして早めに眠りにつきました。

8月4日（日） 小雨後晴れ

朝4時起きしましたが、まだ外は真っ暗なのであと一眠りして4:30に起き出し、出発支度をしました。5時過ぎに小屋前のハシゴを降りて黒部川の河原を少し歩き、近くの岩陰でビバークしていた学生2人と合流。軽く朝食後、5:25赤木沢出合に向けて邇行開始。

天気は小雨がぱらつく予想外の空模様で心配です。トップ前神さん、川名さん、小島さん、中村、小宮山君、町田君、ラスト兵藤さんの順で前後が強力ガイドの安心布陣です。

最初のピッチ（1時間）は前神さんのルートファインディング宜しきを得て、左岸へ右

岸へと渡渉しながら黒部川を気持ち良く遡ります。渡渉も膝、時折腰までザイル確保の必要はありませんでした。ところが赤木沢出合に近づくにつれ黒部川の水量が増え、高巻きが必要な箇所が現れました。1回目の高巻きの後、河原に戻るときで苦労していました。ザイルを付けてガラ場を登っていますがあきらめて戻り始めます。前神さんが左岸をへつろうとしましたが胸までくる水量に引き返しました。それを見た兵藤さんが水の中の石渡り2回で右岸に渡りOKサインを出しました。中村が続きます。最初の石飛びは川の中ほど水面から30cm下の石に飛びますが、上を流れる水流が早いので緊張します。思い切って飛びましたが左足が滑り危うく転びそうになりヒヤリしました。次の石は右岸沿いなので難なく飛べました。

次は小島さんです。小島さんは1回目の石



赤木沢出合で。
左から 中村、川名、小宮山、町田、前神、兵藤

岸へと渡渉しながら黒部川を気持ち良く遡ります。渡渉も膝、時折腰までザイル確保の必要はありませんでした。ところが赤木沢出合に近づくにつれ黒部川の水量が増え、高巻きが必要な箇所が現れました。1回目の高巻きの後、河原に戻るときで苦労していました。ザイルを付けてガラ場を登っていますがあきらめて戻り始めます。前神さんが左岸をへつろうとしましたが胸までくる水量に引き返しました。それを見た兵藤さんが水の中の石渡り2回で右岸に渡りOKサインを出しました。中村が続きます。最初の石飛びは川の中ほど水面から30cm下の石に飛びますが、上を流れる水流が早いので緊張します。思い切って飛びましたが左足が滑り危うく転びそうになりヒヤリしました。次の石は右岸沿いなので難なく飛べました。

この後、右岸沿いに進めず、左岸に戻るのにあと一度難所が有りました。急流に洗われる岩に飛び移る訳ですが距離があるのでザックを背負ったままでは飛べません。兵藤さんが先に渡り、後続のザックを受け取り、テープスリングでサポートしました。先行パートナーは我々の様子を見て、左岸を水線沿いに抜けで行きました。そちらを通つた方が抜けやすそうでした。その後は1回の高巻きで7:20ようやく赤木沢出合に着きました。

出合の黒部川のエメラルドグリーンの淵は“聖域”と呼ばれる優美な淵です。薬師沢小屋から予定では1時間のところ、2時間要しました。入山前に続いた雨で黒部川の水量が多かったのが原因です。赤木沢は思ったより狭い間口で黒部川に流れ込んでいます。

左岸をへつていいよ赤木沢に入ると直ぐにナメ滝が現れました。沢の両側は草付の斜面で明るい感じです。ニシコウキスゲのオレンジが色を添えます。但し、小雨が降り続き、時に強くなるので肌寒く雨具、ザックカバーを付けました。赤木沢の別名「滑（なめう）谷」通り次々に赤褐色の美しいナメ滝や階段状の滝が現れます。途中2回高巻いたばかり、気持ち良く直登出来ます。期待通りの沢に心弾みながら歩く内に知らずに高度を稼ぎます。

大滝に近づく頃から雨が上がり青空が広がりました。10:15 大滝に到着し大休止。川名さん、中村は大滝の直下まで行って写真を撮りました。見上げるとハングした岩の上から轟々と水が落ち迫力十分です。左岸の急な草付斜面をほぼ真っ直ぐ登り、落ち口付近は灌木の中の踏み跡を辿り、急な斜面を下つて滝上の河原に出ました。昔遡った時は滝上の小さな釜で水浴びをした記憶がありますがそれらしき釜は見当たりませんでした。

水量は次第に少くなり川床をジャブジャブ歩けます。二股の手前に茶褐色のナメ床と小滝が続くところがあり、ほんの一時ですがチラチラと光も射し、「これぞ赤木沢」を実感しました。二股から左股に入ると沢はどんどん狭まり、源頭は草原とお花畠です。赤木沢

の良さはナメ滝の連続する美渓にありますが、源頭の草原の好ましさもあります。源頭で渓流シューズを脱ぎ、草原の上に残る雪渓を越えた草付で遡行完了しました。出合から5時間、予定タイムより1時間多くかかりました。

皆の顔は満足感一杯です。小島さん、川名さん、中村の3人は、念願の赤木沢遡行が4年越しに達成できたのは、前神さん、兵藤さんのガイドのお蔭と2人に感謝しました。3人だけでは、赤木沢出合近くの黒部川の石を飛び渡る渡渉が出来ず赤木沢に入れなかつたでしょう。学生2人も初めての沢登りが赤木沢の幸運に恵まれました。大きなザックを背負いながらも軽快な足取りで沢登りを楽しんでいる様子が印象的でした。

写真を撮つた後、2組に分かれました。小島、前神、川名、中村の4人は12:55 黒部五郎小舎に向て出発。兵藤、小宮山、町田の3人は少し遅れて太郎平に向て出発しました。(兵藤組のその後は末尾の*1参照)

稜線に出たところが中俣乗越。そこから黒部五郎岳の登りにかかりましたが、沢登りで疲れた足にはつらい登りでした。渡渉で黒部川に全身が濡れ体力を消耗した川名さんがひどく辛そうだったので、前神さんが川名さんのザックを背負い、3P目の15:33 黒部五郎

岳頂上・カール分岐に着きました。そこにザックを置き、黒部五郎岳頂上を往復しました。その頃から青空が消えガスが涌き展望が全く無く残念でした。

16時過ぎに頂上を後にして黒部五郎のカールに下りました。下る途中の斜面にはコバイケイソウが一面に咲いていました。今年は当たり年で、これほど見事な群落を見たのは初めてと皆同感しました。カールの底に着いた頃、雨が強くなり雨具を着ました。赤木沢を抜ける頃に回復した天気が再び悪化したのは意外でした。そこから黒部五郎小舎まで難儀しました。稜線から降りる尾根を越える樹林帯を何度も越えて小舎が見えません。沢を抜ける頃に回復した天気が再び悪化したのは意外でした。そこから黒部五郎小舎まで難儀しました。稜線から降りる尾根を越える樹林帯を何度も越えて小舎が見えません。コースタイム1時間ほどのところ2時間以上要して薄暗くなり始めた。19:00、3人共疲れ切つて小舎に着きました。実に14時間の行動でしたから疲れたのも無理ありません。先行して小舎に早めに着いた前神さんが心配して、小舎の前でずっと待っていました。

部屋取りもしてあり、前神さんが雨具の整理も手伝ってくれ助かりました。夕食が用意されました。川名さん、小島さんの順で疲れが激しく小島さんは少し食べましたが、川名さんは殆ど食べられません。明日も天気が悪い予報と2人の疲労を勘案して翌日の行動を相談しました。前神さんから一緒に小池新

道を下つて鏡平山荘に泊りましようと提案がありました。が、疲労が少ない中村が「1人でも水晶小屋に行きたい」と強く希望しました。小島さんが「明日の様子次第では、私も水晶小屋に同行しましよう」と言われたので、明日は取り敢えず三俣山荘まで行き、体調次第で最終決定することにしました。いずれにしても、当初予定した五郎沢、祖父沢遡行は取り止めました。小舎はゆつたりしたスペースで快適でしたが、沢登りで普段使わない体のあちこちが痛くて良く眠れませんでした。

8月5日（月）雨

朝5時起床。川名さんの体調が著しく回復し、水晶小屋に向かうとのことで安心しましたが、取り敢えず三俣山荘まで様子を見る」としました。朝食は弁当にしてもらい、5:25 黒部五郎小舎を出発しました。小雨が降つてるので上下雨具を着込んで三俣山荘へ向かいました。2Pで三俣蓮華岳・三俣山荘分岐に着きましたが、川名さんの足取りは心配ありませんでした。8:20三俣山荘着。雨が強くなつてきました。

山荘に入つて朝食＆ラーメンを食べながら今後の行動を相談しました。小島さん、川名さん、中村は明日からの裏銀座縦走の為、今日は水晶小屋泊、前神さんは当初予定通り單独で双六小屋経由で小池新道を新穂高温泉に



赤木沢にて。

左から 前神、川名、小宮山、小島、町田、兵藤

8月6日（火）雨後晴れ

朝、空は暗くどんより曇つていますが、時折ガスの切れ間に槍ヶ岳が見渡せるので急ぎ写真を撮りました。今日は悪天とあきらめていたので、天気が良くなるのはと期待しました。5:40 水晶小屋を出発。東沢乗越の少し手前で、乗越から少し下った草原を歩く熊を見つけました。少し小振りなので最初は黒い犬と見間違えましたが熊と気が付き、「熊ですよ」と指差すと小島さん、川名さんも驚きました。熊は真砂岳方面の斜面に姿を消しましたが、裏銀座稜線近くに熊が居るのだとかと暫し話が弾みました。

東沢乗越で小憩後、真砂岳に向かいましたが、雨が降り出し、かなり強くなり、岩陰で雨宿りした時は今日も悪天かと気が重くなりました。真砂岳手前の竹村新道分岐を通過する頃に雨が上がり見晴しが良くなりました。長大な東沢、その向こうには水晶岳から赤牛

乗越を越え、13:40 水晶小屋に着きました。

水晶小屋は定員30名と小さいので大混雑。小さい布団に2人。ザックを置くスペースはなく、壁のフックに掛けるしかありませんが濡れていますので困りました。定番のカレーの夕食が済むと居場所もないのに布団に潜り込みましたが、小島さんと同じ布団なので刺身寝しました。

岳にのびやかに続く稜線、眼下に五郎池、前方の野口五郎岳にゆるやかに登る道を見ながらの稜線漫歩を楽しみました。

9:33 野口五郎岳着。広々とした頂上からは360度の展望が楽しめます。槍ヶ岳から天井岳、燕岳、餓鬼岳の稜線は見飽きることありません。写真をたっぷり撮った後、9:53三ツ岳に向かいました。三ツ岳手前で素晴らしいお花畑に遭遇し歎声を上げました。雪渓が消えたばかりの草付斜面にチングルマ、ハクサンイチゲ、ツガザクラの群落が咲き誇り、正面には高瀬川からせりあがる槍ヶ岳が聳え



野口五郎岳頂上にて。
左から 中村、川名、小島

ます。写真撮影の絶好のポイントですのでここで長い休憩を取りました。小島さんは大学1年の夏山縦走で、剣を出て針ノ木谷支流の南沢を廻行して艱難辛苦の末、翌日稜線に出で裏銀座を逆に笠を目指した時にこのお花畑に立ち寄った場所と懷かしく思い出されました。

三ツ岳の頂上は巻いて烏帽子小屋の向かう下り道にはコマクサの群落が次々に現れ、川名さんは何度も立ち止まって写真を撮りました。天気は完全に回復し、青空が広がり、烏帽子小屋に着く頃はジリジリと夏の太陽に照らされました。13:55 烏帽子小屋着。宿泊手続きを済ませた後、小屋前の日当たりの良い丸太ベンチに座って溪流シユーズはじめ濡れたものを乾かしながらビール（小島・川名）、コーラ（中村）で乾杯しました。烏帽子小屋は夕食がおいしく、水晶小屋と違つて布団一枚に1人のゆったりスペースでゆっくり就寝できました。

8月7日（水） 快晴

朝、雲一つない快晴。絶好の登山日和です。朝食後、下山に先だって烏帽子岳を往復しました。烏帽子岳に向かう稜線の岩陰にイワギキョウが可憐に咲いています。烏帽子岳頂上から立山、剣岳が良く見えました。中村、川名はさらに烏帽子四十八池まで足を延ばしました。草原に池塘が点在し、その周りにチングルマ、ツガザクラが咲き乱れ、天上の楽園の趣です。池塘に稜線の岩峰がくつき映ります。写真を撮りまくりました。

鳥帽子小屋に戻り、8:40 ブナ立尾根の下山開始。名にし負う急坂の連続ですが手入れの良い道なので調子良く下つて4P（3時間40分）で、12:20 高瀬ダムに着きました。但し、帰京後的小島さんのメールでブナ立尾根の下り2時間は右足膝の痛みがひどかつたことを知りました。痛みを隠して頑張られたのでした。運良く客待ちしていたタクシーに乗つて大町温泉郷に行き、風呂に入つた後、赤木沢と裏銀座縦走の充実した山行を振り返つて気持ち良く乾杯しました。

*1 下山報告 兵藤元史（前神さん宛メールより抜粋）

4日（日） 曇り 時々小雨 時々晴れ間（略）。中俣乗越で、右と左に分かれ、我々（小宮山、町田、兵藤）は太郎平へと13:00出発、太郎平小屋着16:00。小屋から10分の薬師峠キャンプ場にて、学生のツエルトで3人泊。夕飯の支度最中に雨が降り出し、朝まで断続的に降る。ツエルトに3人で、外側の学生2人には悲惨な夜になつた。

5日（月） 曇りのち雨 4時過ぎに起き

た時は雨は止んでいた。足の速い学生は、朝食後出発することにして兵藤は紅茶を飲んだだけで5時前に一人先行した。時々晴れ間が見え、一時は富山湾も見えたが、7時頃から本格的な雨になる。8時折立着。5:55に天場をでた学生も暫くして到着、2時間強で着いた。さすが早い。折立からはバスで昔懐かしい有峰口経由、富山地鉄にて富山にて解散。

*2 下山報告 前神 直樹（兵藤さん宛
メールより抜粋）
5日 9時ころ三俣山荘で3人と別れ、当方は双六小屋を経由して新穂高温泉に17時下山しました。殆ど雨でしたが13時ころから雨は止んだものの16時くらいからまた降り始めて散々な下山でした。

となりの里山——岡山県矢掛町暮らしへ
金子 晴彦（昭46卒卒）
2013年2月、退職を機会に東京を出奔して岡山の倉敷市の西北方、矢掛（やかげ）

という人口1万5千人の過疎認定の町に移住した。女房の実家があり、大きな田舎屋に一人だけ残った義母が倉敷の老人施設に入つて既に4年が経過していた。2反（600坪）ほどの畠を宅地転用してその半分に家を建て、義母を施設から引き取つて同居し、にわか百姓となつて、放置されて久しい畠や草地を掘り返し、野菜つくりを始めた。

引っ越した2月はとんでもない寒さだった。冷暖房のほとんどいらない都会のマンション暮らしに慣れっこになつていていたせいか、マイナス2度で震えあがり、実家に置きっぱなしになつて古い石油ストーブが大活躍した。“晴れの国岡山”と聞いており、これほど寒さは予想外で、遠隔の過疎地の里山に移り住んだことを痛切に意識した。

僕は中学校以来、貫して都会と山の間の往復を続けてきた。いつの頃からか、しばらく都會にいるとも調子が落ちて、山に出かけて歩き廻つて帰ると気分が良くなるということを体験的に知つた。そのせいで、香港や北京の海外駐在の折にも周辺の山々への往復を欠かさず、山という自然と都會という人工のほど良いバランスを図つた。

それが、退職となると山を求める理由となつた都會＝仕事場にいる必然性が低くなつ

た。東京で育ち、生活してきたものの、世田谷の実家が超過密な住宅街に飲み込まれて幻の様に消えてしまつたおぞましい経験から、地域ではさほど強い絆を育んでこなかつたこともあり、退職後はどこか別の地で暮らしたいと思つた。

また、退職と同時に、小学校、いや幼稚園時代以来60年にわたつて依存してきた人生の基本的枠組みである9時／5時の時間割が消えた。とは言え人間には三度の飯に加えてやはり何らかの時間割は必要だ。ではどんな時間割があるのか？ 僕は季節が変わつたり、植物が育つたりする自然の時間割と言うものが気になつた。折から評判になつた「日本の七十二候を楽しむ」などと言う本を眺めて、これだと思つた。

ではどんな舞台でどんな生活をすべきなのか？ 都会の対極の山の中なのだろうか？ しかし、登山で出かけた山はあくまで山道を登つて山を通過する行為であつて、そこに暮らすことはほんない。一条の道の向こうの膨大な山は永遠に通りすがりの場所だ。これに對して、バスなどに乗つて通り過ぎる山麓には人がいて、都會ではない里山暮らしをしている。山でもなく、都會でもない、それは一体どんな暮らしなのだろう？

らし、そして義母の施設からの引き取りが移住先の選定基準になり、4年前から移住候補地の物色を始めた。実家の古民家再生策も同時に検討した。大磯、千葉、山梨、長野……それに素晴らしい場所はあったが、義母の引取りという命題もあるだけに単に豊かな自然という訳にも行かずなかなか決めかねた。実家は広すぎて、古すぎ（築後180年）で再生は経費的にとても無理と分かった。あれこれ迷っていた2年前の夏、休暇で矢



矢掛町

掛に滞在していたある朝、実家の畑に向かつた。舗装道路を30mばかり登り、左手の細い砂利道を数歩上がる。みずきの明るい林があり、その向こうに小さな畑が広がり、さらに向こうに矢掛の盆地が見下ろせ、爽やかな朝風が吹いている。途端に強い既視感に捕われた。それは、これまで幾度となく登った山の頂への最後の一歩で見たと同じものだった。高度と言えば精々40mにすぎない。しかし、ここにはどういうわけか頂というものの雰囲気が溢れている。塔ヶ岳、高松山、北岳……

いささか大きさだが、そんな山々の頂の雰囲気だ。東京からはあまりに遠いがここにしよう。そう思い、結局この地に移住することになった。

それから移住までの2年間は、通常業務の傍ら、東京の建築業者と延々と設計の打ち合わせをし、農地の宅地転用の許可を取り、家を建て、引っ越し準備をし、息子家族に家を明け渡すという煩瑣な作業に終始した。夜は多くの知人とお別れ会を繰り返した。当たり前のことだが移住先の矢掛には親しい人は全くいないし、決まった仕事が有るわけでもない。生活と人間関係はこれまでのものとはおさらばして、新たなものを一から作り上げなければならぬ。親しい友人から、「歳をとつてからこそ東京だよ」との発言も有った。

たまりにたまつた膨大な量の引越荷物を整理しながらこの出奔は本当に正しい選択なのかとしばしば迷った。

その内、女房の従姉妹夫婦がこちらの計画に刺激されたのか、歯科医を早々に廃業し、僕らが諦めた古い実家を自分たちでこつこつ修繕して移住することになった。神戸の芦屋に好んで住んだ人間達が田舎暮らしに転身するとは予想外だが、仲間ができることは大歓迎だった。ほぼ同じ時期に引っ越してきた。

以来、鍼をふるいすぎたせいで手首と左腕の肘の筋肉が腱鞘炎を起こした。手の指の関節の曲がり具合が油が切れた様にぎこちなくなつた。顔は日に焼けチベットの農民の様に深いしわができる。体重は68kgから60kgに一気に8kgも減り、胴回りは何と80cmまで縮まつた。わずか半年での大変身だ。畑では20種類の野菜を育て、サクランボ、栗、梨、柿などの果物をふんだんに収穫した。村の高齢化が進み、畑を耕す人が減り、森が次々に畑をつぶしてゆく様を目撃したりした。女房と四六時半共に暮らすことでそれまで知らなかつた新しい人間を発見した。同居した義母の認知症が進み、人間が加齢とともに壊れていく無惨な様子を初めて目にした。

つまりは、予想通り、2月以前とは全く違

う生活が突如始まった。珍しいと思うものを

片端から写真に撮り、パワー・ポイントにまとめ、100件以上のレポートができた。この先どんな展開になるかは分からぬ。村の農民と親しみ、町の役場や議員連中に知り合いになり少しづつ目を開かせてもらっている。

こんなわけで山には山行幹事としての任務上、5月の懇親山行（飯盛山）に出かけただけだ。ところがそれで調子が悪くなるなどと言ふことは最早無い。半年前までの僕とは大違いだ。煙で山の頂きを感じたとおり、村には山の気配があちこちにあふれている。先日は町の北西の山の中であるネパールの山村の様な急な棚田とその上に建つ古い農家を見つけた。しかも、買い物や、病院、公共施設、交通などで不便を感じることも無い。ここは都会と山が圧縮されて狭い地域に同居した様な場所なのだ。

とは言え、過疎地指定を受けていたために、耕作放棄地、空き家、後継者不足と言った問題は重い。当面はまだ良い、いずれ大きな問題になる。ではそこで僕に何ができるのか？すべきなのか？自然の時間割を相手に過ごすという心つもりの延長上に、過疎地域の問題に開拓して行くという、以前はあまり考えていなかつた問題が少しばかり見える様に

なってきた。

不思議な因縁だが山岳部で2年先輩の藤原

さんの実家が矢掛から電車で30分の総社にある。母上が一人で住んでおり、藤原さんは毎月短期間実家を訪問するそうだ。そのついでに矢掛の山を登ろうと言うことでこの9月に同行のお誘いがあった。しかし、その日は

たまたま矢掛町並み保存会のゼミの撮影を依頼されており失礼した。妻籠の町並み保存を実現した責任者を含む50数名が矢掛町を視察し、矢掛の重要な伝統的建造物（重伝建）指定の可能性について協議した。結果はいささか近代的過ぎる矢掛の町並みでは困難という評価だった。はどうするか？そんな議論に関わり始めていると山の世界はいささか遠くなってしまうが、それは自分が既に山の中にいるからだと納得した。

新しい生活の基盤は未だ確定しない。しかし、僕にとってはきわめて新鮮な世界であることだけは確かだ。その新鮮さに刺激を感じる間に、今後の方向を確定して行きたいと思つてゐる。

鹿島槍ヶ岳は何年ぶりになるだろうか。覚えているのは大学1年の時松尾さんに連れられて後立山を縦走した時で、このとき初めて遭難死体を見たのが強烈な記憶として残つてゐる。もう一つの想い出は社会人となつて数年目、1月成人の日の三連休に当時の若手OBと爺ヶ岳南尾根を登り鹿島槍の往復を狙つたが、雪が想像以上に深く冷池で時間切れとなつた。帰路は赤谷尾根を下つたが、途中雪崩を起こしそうなところがあつて、ザイルを付けた小林がトップで雪を切り開き無事に下山。結局この山は1年生の縦走以来約40年ぶ

鹿島槍ヶ岳

2013年9月22日(日)～23日(月)

前神 直樹 (昭51年卒)

りだったのかもしない。

9月21日、新宿で一杯やつたあと、夜行バスへ乗り込む。疲れさえすれば夜行バスは効率が良い。昔に比べれば座席の座り心地も申し分なく適度なアルコールで熟睡。

22日 晴れのち曇り 0530 扇沢登

山口 0640 八町坂 0910—094

0 種池小屋 1050 翁ヶ岳1230

冷池山庄

まだ薄暗い扇沢バスターミナルに5時前に到着。柏原新道の登山口がわからず少々まごつくが、一旦大町方面に戻るとわかり10分ほど歩いて登山口へ。よほど登山者が多いのか、登山口には登山届けをチェックしている人間もいて登るパーティーは例外なく提出してゆく。

最初はきつい登りから始まるが登山道はよく整備されており、さすが北アルプスで最も歩きやすいという評判に偽りはない。空は青空で夜行バスの眼鏡もだんだんに抜けていく。1時間ほどでケルンを積んだ地点があつたが、ここから種池の小屋が見える。結構近いなと思われたが、これがゴンドラのなかつた頃の遠見尾根の第一ケルン、あるいは涸沢ヒュッテの吹流しのごとく、そこそこ近くに見えながら登つて行くと容易な事では近づか

ない。

登山道は翁ヶ岳南尾根の下を巻いて行くよう登つていくので傾斜が急ということはないがともかく長い。長いけれど喘いで登るようなどころがないのでこれを称して北アルプスの入門コースと言うのだろう。何とか岬とかいう名前が頻繁にでてきて何でそんな名前が?と考えながら気をまぎらわす。

2時間半ほどで種池に到着。針ノ木岳と蓮華岳の姿が立派。天気がよいのでこれから越えて行く翁ヶ岳もくつきり見える。翁ヶ岳の登りにかかるとすぐに立山、剣岳が姿を見せると、折からの紅葉もあってなかなかの景観となつた。山岳写真を撮っている人もいる。大町方面は雲海の下で黒部方面の見渡す限りの景観と絶好のコントラストになつていてが、みるみるうちに主稜線に雲が巻くようになる。しかし雨の心配はない。

1時間ほどで翁ヶ岳南峰に到着。ここまでくれば冷池山荘まで下り一方、雲が巻く中で時折姿を見せる鹿島槍ヶ岳に、皆は本当に頂上まで届くのかと若干自信無さげではある。

1230には冷池山荘についたのでどんなにゆっくり歩いても4時間と言われる鹿島槍ヶ岳の頂上往復は可能だが、すでに一面ガスで小屋の人間はにわか雨も降るかもしれないと言うので、気分は一筆にビールに傾く。



鹿島槍から白馬の眺め

小屋の外はガスで何も見えないが寒くはなく、ビールでグチャクチャとしやべりながら時間をつぶす。それでも容易に時間は過ぎず、昼寝もする。一応布団一枚に二人とは言っていたが、まだ到着していない人間もいてかなり快適な昼寝となる。6時には夕食だったので、これを朝食と間違えてこれから頂上に登ると思っていた人間もいたのでいかに快適な昼寝だったが想像できる。

23日

晴れ時々曇り 0540

冷池山

莊 0745—0810 鹿島槍ヶ岳 091

0—0930 冷池山莊 1030 高千穂

平 1230 西俣出合 1330 大谷原

一晩待った甲斐があつて、朝から快晴であ

る。大町側は見事な雲海で、そこから昇るご

来光も拝ませてもらつた。鹿島槍の頂上に向

けて勇躍と出発。左手に見える剣岳は矢張り

立派で、八つ峰とその奥に鎮座するチンネの

登攀ルートも見えるのではないかと錯覚して

しまいそうだ。山莊から頂上までの道は快適

で、もちろん登りなので楽ということはない

が、布引岳も想定したとおりの時間で通過す

る。布引から頂上までも下から見える通りの

ルートを辿つて行き、下から頂上だと思つた

地点が裏切られず南峰の頂上だつた。

立山の薬師も針ノ木も蓮華も五竜もそして

槍も常念も見えるが、南アルプスや八ヶ岳、

富士山といった遠隔の山は見えない。北峰の

往復も考えたが吊尾根はかなり急峻そうで、

これだけ眺望を楽しんだのであとは大町で一

杯だと、下界の楽しみに心は傾いている。快

調に山荘まで飛ばして、預けた荷物をザック

に詰め込んで出発。

普通なら爺ヶ岳を登り直して、前日通つて

きた柏原新道を戻るのだろうが、爺の登りを

皆嫌がり、結局赤岩尾根の道を下りる。この

頃にはまたガスが湧いてきて鹿島の頂上はほ

とんど見えない。高千穂平では天狗尾根が見え隠れして、山岳部の部室にあつた、そして小森康行の「日本の岩場」に載つていた故中村慎一郎さんの写真を思い出す。

高千穂平からはぐんぐんと高度を下げ、沢の音がはつきりしてくると西俣出会いである。ここからは車道歩きが一時間だが、下りてきてしまつた気安さでまた喋りながらの歩行なので苦にならない。冷池で頼んでおいたタクシーは予想より早いスピードで下りてきたのでまだ來ていない。グタグタと時間を潰していると結構大きな猿の群れが現れる。見

ているとどうも遊んでいる風だが、上高地の猿といい、間違いなく猿は昔より下に下りていると思つた。

大町で一杯やるつもりだったが、新宿直通の特急は席が取れず、自由席も座れないだろうと予測して、各駅停車で松本にて一杯、それから松本始発あづさの自由席に並んで帰京した。今年の前半はどの山も天気に恵まれず、8月の赤木沢も後半雨で散々だつたが、この鹿島槍でやっと報われたという思いだつた。

廻り目平山行

■ 「廻り目平」学生OB合同合宿の総括

本間 浩（昭39年卒）

当初の計画では、大弛峠から国師岳・北奥千丈岳を往復し、金峰山から川端下に入る予定であったが、数日前の台風で倒木が道を塞ぎ、その撤去作業中のため車は柳平の金峰山荘先のゲートまでしか入れない。そこでコースを変更、韋崎から瑞牆山荘まで車で入り、そこから金峰山を越えて川端下に入ることに

平成25年10月18日（金）

参加者：本間、佐藤（久）、中村（雅）、藤原（大日岩下からサポート）「学生」伊藤、長島

懇親会・蛭川、本間、佐藤、吉川、中村、藤

原、宮武、山田夫妻+娘さん

(学生)伊藤、長島、原、菊田 「廻り日平
合宿懇親会」参照】

10月20日(日)

前日、予定を協議。OBの疲労度を勘案、
甲武信岳越えを小川山越えに変更、再び瑞牆
山荘から蛭崎に出ることにした。

小川山組 本間、佐藤、中村、「学生」伊藤、

長島 長島組 藤原、宮武、「学生」原、菊田

金峰山組 吉川車 蛭川、吉川

山田車 山田家族

当日朝からの雨で、登山は中止し、吉川車
(OB)・宮武車(学生)に分乗して東京に戻
る事にした。

■金峰山越え(10月18日)

中村 雅明(昭43年卒)

一・出発まで

藤原さんの指示で、学生2名に中村が付き添つて金峰山経由で藤原山荘を目指すことになった。大日岩到着が遅れたので、金峰山越えで廻り日平に明るい内に着けるか、本間さんと

ん、佐藤さんが心配されたが、藤原さんは「学
生さんは下りが早いので大丈夫ですよ」と言
い切った。それでも悪いケースを心配した佐
藤さんが懐中電灯を持ってきたか聞いたところ、2人とも持っていないという。事前の学
生向け案内の「登山装備」に「私物用具は、
登山靴・衣類以外はOBより借用する」と書
いてある。今回は佐藤さん、藤原さんが懐中
電灯を貸したが、今後、懐中電灯、雨具は個
人装備として持参する様に指導する必要がある。

大日岩までの3ピッチは本間さんの適度な
ピッチで登ってきたので、若い学生さんの早
いピッチについて行けるか少し不安がよぎ
る。ただ、これから歩くコースは6月に藤原
さんの案内で歩いた逆コースなので様子がわ
かっているのは心強い。12:45出発。

二・金峰山頂まで

伊藤トップ、長島、中村で歩き始めたが2

人は張り切って脱兎の如く樹林帯の中の急坂
を登つて行く。伊藤君は大股で力任せにぐい
ぐい登つて行くのでストップをかけ、「そんな
スピードでは後が続かない。抑えて抑えて!」
と注意する。それでもかなりのスピードで登
り続けたので少し早めの13:30休憩。トップ
としての歩き方を教える。トップを歩く時は

どうしてもペースが速くなるので意識的に抑
えること、後続のペースを常に気を付けるこ
と、……など。13:37出発。

急な樹林帯の登りを10分ほど続けると樹
林帯を抜け、砂払いの頭に立つと思ひがけな
い景色に出会えた。上空のガスが消え、一面
の白い雲海の先に南アルプスが見える。金峰
山の右側には雲海から富士山も聳えている。
学生も喜んで携帯で写真を撮る。

この先は山梨県側絶壁と長野県側のハイマ
ツ帯との間を突き上げる岩尾根を登高する。
伊藤君は相変わらず元気に登つて行く。長島
君の歩きもまづまづ。但し、岩場は慣れてい
ないので、「下りは怖いね」と2人共心配そう。
そこで金峰山小屋への巻き道分岐で小屋を指
差して、「下りはこの道でなく、頂上から金峰
山小屋へ直接下るよ」と説明する。藤原さん
からは学生が不調の場合は、頂上をあきらめ
分岐から小屋に行くようにと言っていたが
杞憂だつた。

ところがこの頃からガスが涌き、頂上付近
が見えなくなつた。岩尾根を登り切り、14:25
山頂の一角にそびえ立つ五丈石の基部着。大
日岩から2P1時間40分。コースタイムより
若干早く及第点か。但し、伊藤君の歩くペー
スが課題である。展望はないが折角なので頂
上に行くことにした。2人共ついて来たと

思つたが、頂上に来たのは伊藤君一人。長島君は疲れで休んでいるとのこと。

ガスは晴れず全く展望なし。晴れていれば奥秩父随一の展望を逃した伊藤君が気の毒だつた。頂上の道標のところで伊藤君の写真を撮り五丈石基部に戻る。長島君はそこで暫し眠つていたとのこと。それほど疲れていたのかと心配になつたが、中村の持つてきたりンゴを食べ元気が出た様子なので安心した。

三・中ノ沢出合まで（下山）

14:47 金峰山小屋に向けて頂上を後にした。小屋まではハイマツの間の岩の上を歩くので慎重に足を運んだ。金峰山小屋は素通りし、樹林帯の中の道をどんどん下つた。下りは慣れていない為か、伊藤君のペースは速過ぎることなく長島君との間も離れず適切だつた。50分ほど下つたところで休憩。2人とも今回新調した靴を履いてるので足の調子を聞いたところ、伊藤君は問題なし、長島君は肉付きが出来て痛いとのこと。「あと30分で中ノ沢出合。その後は歩きやすい林道」と説明すると安心した様子だつた。

15:47 出発。10分ほど下つた所で、中ノ沢出合から迎えに来た藤原さんと遭遇。今日2回目の出迎えに感謝。16:20 中ノ沢出合着。ほぼコースタイム通りだつた。明るい内に廻

り目平に着く目途がついて安心する。小憩後、歩きやすい林道を飛ばして 17:15 金峰山荘に着く。その手前でそろそろ着く頃と虫が知らせた佐藤さんの出迎えを受けた。岩根山荘のバスの出迎えが有り難く、藤原山荘に 17:30 着。本日の山行を無事終了した。

四・あとがき

伊藤君は9月の芦安登山道整備に続いて今回が2回目の山行。長島君は初山行。金峰山に着いた時、長島君が疲れた様子だつた理由が、藤原山荘での夕食時の話で判明した。彼の自宅は品川で18日の八王子発 6:30 に間に合わないので国立の伊藤君の下宿に泊めてもらつた。ところが満足な寝具なし・しかも床に寝たので、寒くて痛くて満足に寝られず寝不足だつたので登りが辛かつたとのこと。歩き方のバランスは良いので体調良ければ大丈夫だろう。2人の課題は、①雨具・地図・懐中電灯は必携個人装備として持参すること、②長時間リズム良く歩けるペースを身につけることである。

廻り目平からは、金峰山や小川山が登れるという。10月の下旬近いので、さぞかし、紅葉が綺麗だろう。紅葉を愛でながら、白い富士山も望める。地図を良くみると、廻り目平の近くは、唐松の紅葉が美しいとあつた。大

■ 茂来山紀行

吉川 晋平（昭42年卒）

学2年、東京オリンピックの秋、北鎌尾根の冬のアタックのための荷揚げの帰り、湯俣川沿いの道。唐松林を歩いていると、黄色に色づいた唐松の葉が、風に吹かれて、腕に肩に散ってきた。とても感激した記憶がある。

よし、参加しよう。ということで、茂来山登山となります。

当初は、金峰山か小川山と考えていた。特に、小川山は登つたことがなく、今年の初夏



茂来山頂上にて、左から佐藤、本間、吉川（中村撮影）

に瑞牆山に登つたとき、ガイドが静かで奥深く面白い山と言っていたので、登ればと思つていた。しかし、本間さんが、前日に学生と金峰山に登るので、翌日小川山はきついとのこと、また、単独行は気が進まないので、結局、茂来山となつた。

本間さんから茂来山の名がでたとき、「??？」ネットで調べるにも読み方が分からず、「しげる・くる・山」と順に入力し、検索できた。もらいさんと読むのだ。佐久の名山のこと。浩宮時代の皇太子が登つた由緒ある山でもつた。標高1717メートル。

10月19日（土）朝8時過ぎ、本間・佐藤（久）・吉川・中村の4名で、今にも泣きだしそうな空の下、岩根山荘を出発。3年先輩・1年先輩・1年後輩と、学生時代に戻つたよう。国道から登山道に入る分岐点を見誤つたが、車1台がやっと通れる石と泥の道を通つて、9時10分、霧久保沢登山コースへの駐車場（と言つても雑草が生い茂つている広場）に到着。9時20分、林道を歩き始める。17分で、登山口に。

登山道に栗のいが殻が大量に落ちている。いが殻を踏みしめながら登る。実が全部無くなつてるので、熊が食べた残り滓ではないか、熊が出たら誰が退治してくれるのか、やっぱり久さんかな、などと想像しながら歩く。

ところが、本間さんが速い。歩き始めたとき、本間さんが先頭に立つた。病み上がりと聞いていたので、自分のペース即ちゆっくり歩くのかと、勝手に考えた。この考えが浅かつたことに直ぐ気がついた。本間さんは速い。登りも下りも速い。ついていくのがやつと。10時5分、こぶ太郎に到着。

こぶ太郎。森の巨人たち100選の木。巨大なトチノキ。樹齢約250年。樹高22メートル。幹周5・31メートル。太い幹に、大人の頭程の大きさのこぶが沢山できている、こぶだらけの木。それで、こぶ太郎。こぶ太郎を鑑賞するために、木製の広いテラスが作られ、ベンチも設置されている。茂来山随一の見どころである。

10時15分。出発。トチノキ・クヌギ・ブナ（？）などの、広葉樹の林の中の、急斜面の道を登る。落ち葉が石も土も見えないほどに登山道に積もつていて。落ち葉がクツショーンになり、足に優しい。急斜面を喘ぎ喘ぎ登る。途中、大王トチノキを通過。こぶ太郎ほど幹周は太くないが、樹高は遙かに高い。屹立して、周囲を睥睨している。30分程歩いて、休憩を入れ、11時22分、尾根道に出、槇沢コースと合流。尾根筋の枯れ木の中を13分程歩き、最後に、7・8メートルの高さの岩山を登り、11時35分頂上到着。

360度の眺望。八ヶ岳、甲斐駒・北岳など南アルプス、富士山、両神、浅間、遠くには雪化粧した北アルプス。が、見えるはずであつた。残念ながら、生憎の曇り空。何も見えず。やむなく、吉川が持参した、茂来山頂上からの展望写真を見て、各人、頭の中に思い描いて、楽しんだ。

岩根山荘手作りのお握りを食べた後、12時、下山開始。13時35分、駐車場に到着。帰途、想い出の松原湖を訪ね、岩根山荘まで帰る。他に登山者はなく、静かな山旅を楽しむことができた。本間さん、本当に有り難うございました。

なお、記録は全て中村さんの提供によるものです。

■ボルダリング体験（10月19日）

藤原 朋信（昭44年卒）

一廻り目平の岩場に出かける前に

山荘でハーネスを付けて、ザイルの結び方を練習した。結び方は現時点で最も信頼がある8の字結びにした。

次にクライミングショーズを履いてみたが、伊藤君はピッタリであったが、長島君

には小さすぎて気の毒であった。学生に大柄な人はいないという事前情報には178cmの長島君は入っておらず、私の確認ミスである。

山荘の最後に2階のクライミングウォールでボルダリングとアブミ練習を軽く行つた。

二 山荘から徒歩50分の廻り目平にでかけ

たが最初のフリークライミングの岩場は増水した川の水に邪魔されて、バス、以降ボルダリングの岩場を数箇所見学して（岩場が乾いていないので実習は易しいルート2本のみとした）廻つた。

三 ボルダリング終了後は廻り目平のトレックイングコースである屋根岩コースを周回して帰途についた。ボック訓練も兼ねて5kg程度の石を持つてもらつたが、さすが若者なんら問題なく帰着した。

四 山荘で小休憩後、各人勝手にクライミングボードで練習したが、終了点まで到達できず、課題は次回に持ち越しとなつた。宮武車の女子学生2名も山荘に到着し、菊田さんが1回ボルダリングにトライした。男性陣より見込みがありそうで次回以降に期待！

■廻り目平合宿懇親会（岩根山荘）

中村 雅明（昭43年卒）

出席者＝蛭川、本間、佐藤（久）、吉川、中村（雅）、藤原、宮武、山田夫妻＆娘さん、「学生」伊藤（3年）、長島（3年）、原（2年）、菊田（国立音大2年）

今回の廻り目平学生・OB合同合宿は懇親会への出席のみが義務づけられたアダージョ型の懇親山行で、18日もしくは19日にそれぞれ行動した参加者は、19日の夜、岩根山荘に参集しました。司会は主幹事の本間さんの指名により中村が務めました。

冒頭、今回の合宿の立役者の藤原さんと本間さんに中村よりお礼の言葉を述べました。

藤原さんは現地幹事としてご自身の山荘を学生の宿舎として提供・食材手配・料理一切の面倒を見ていただきました。本間さんは主幹事としてOBへの連絡・学生へのきめ細かい連絡・支援に尽力されました。この合宿の骨子は3年前、本間さんと藤原さんが立案したもので、それが今年実現したお二人のお蔭ですと皆さんにお伝えしました。

学生と初対面のOBが多いので、学生4人に自己紹介してもらいました。各自、出身高

校、入部動機、今後の抱負などを話しましたが、伊藤君には9月の芦安登山道整備デビューや、11月3日開催予定の月見の宴にも触れてもらいました。

遠路北海道から参加された蛭川さんの音頭で乾杯した後は、岩根山荘のおいしい食事&お酒を飲みながらのOBのスピーチで大きく盛り上りました。トップは、山田さん。結婚後久し振りの顔見世です。奥さん、お嬢さん（アズミちゃん）とご家族での参加です。

顔がふつくらして、家族サービスに忙しく山から遠ざかっていると思いきや、年間30日も登っている、しかも難しいルートの登攀もされているとの話に皆さん感心することしきりでした。奥様にも同じ山岳会で山田さんとクライミングと共にされ結婚に至ったことをお話をいただきました。お嬢さんも可愛らしく、雰囲気を和やかしてくれました。

芦安の夜叉神峠登山道整備に昨年大活躍し、今年9月にも参加した宮武さんが学生向けてに芦安と一橋山岳部との関わり、登山道整備のきっかけである芦安山岳館のことなど判りやすく話しました。またこの登山道整備のリーダーを務めた本間さんが補足しました。

ヨーロッパアルプス・トレッキング、東海道歩きなど活発に活動されている吉川さんが、ゴルフ一辺倒から山登りを復活した現況

の話の後、山岳部1年の時の忘れ難いエピソードをユーモラスに語り大受けしました。「夏合宿中、リーダーに中学生が捨てた弁当を拾いにいかされたが、リーダーは自分だけで食べるのではなく半分分けてくれた」、「私物チヨコレートを皆に分ける習慣があつたが、リーダーは最後に残った1つを自分が食べるのではなくジャンケンで決めた」。山岳部は厳しくとも民主的な運動部であることが窺える話でした。

インド・ヒマラヤトレッキング（9／9～10／2）から帰国間もない佐藤（久）さんが指名されました。佐藤さんは個人的なトレッキング体験談よりも、学生さんに参考になることを話します、と①山登りは一生続けられる、歳に応じた登り方が出来るスポーツ、②山岳部は開かれた部で先輩・後輩の繋がりが強い組織であるので、卒業まで山岳部に留まり、積極的にOB山行に参加することを勧めました。

蛭川さんは、はるばる北海道から参加したのは、同期の本間さんが幹事であること、快気祝い（本当に回復したか確認？）と同期の友情の強さを語りました。

今合宿の立役者の藤原さんは、3年前に企画した合宿が今回多くの参加者を迎えて盛大に実現したことは画期的、嬉しいと述べた後、

現役時代から見ると別人の様に大変身した経緯、足取りなど、くだけた口調で語りました。最後に「自分もそろそろ引退の年なので学生さんの岩登り指導をお願いしたいところです。

懇親会の最後の呼び物は菊田さんが演奏・録音した山讃賦のピアノ演奏の初披露でした。中村がインド・ヒマラヤトレッキングに出掛けた前に依頼したものが懇親会に間に合いました。広い会場なので音量を最大にして再生したので雑音が少しになりましたが、初めて聞く山讃賦のピアノ演奏に興味深く耳を傾けました。再生が終わつた途端に、「3箇所、自分達は楽譜と違つて歌つているね」との思ひがけない？本間さんの感想に皆さんワードを反応しました。それからはもっと音質良いレコーダーで録音すべし、だれか歌の上手な人に演奏にあわせて歌つてもらおう……と話が弾みました。

終了予定の8:00を過ぎたので、全員立つて山讃賦一番、四番を大合唱しました。終わつた後、蛭川さんから、「四番の……山籟を遠くときの“山籟”を現役時代は“雷”と思つて歌つていましたが、”山風が樹木を吹き騒がす音”です。また、……うつつくゑま

いするかなの『ゑまい』は『笑む』で『めまい』ではありません。』との講釈があり、雷にめまいすると思つていた私も、座つて蛭川さんの話を聞きましようと言うことになりましたが、藤原山荘に送つてくれるバスの用意が出来ましたとの声で、残念ながらお開きとなりました。

いうプログラムであった。宿泊はOBの藤原さんの山荘にお世話になり、二日目（19日夜）には岩根山荘においてOBと現役の懇親会が行われた。

19日は全体的に曇つており、山の中に霧が立ち込め、霧雨又は少しばらく程度の雨が降つたが、20日は比較的強い雨が降つていたため最終日の山行は中止となつた。

蛭川さんと合流し、まず飯盛山に向かう。途中山梨のサービスエリアに寄つたが、すでに雨がポツポツと降り始めていた。駐車場の一角に筐子トンネル事故の弔いのための献花台が置いてあり、古い商店や食堂と、献花台の新しさ、埋め尽くされている花の対比が雨の中印象に残つた。

■飯盛山（10月19日）

原 萌子（社会学部2年）

一・今回の秋合宿は、OBと現役による、廻り日平の山荘での初の合同合宿の記念すべき第一回目であった。現役部員としてこのようないいな晴らしい体験をさせていただいたことに感謝しつつ、この企画を支えてくださつたOBの方々、特に合宿場所として素晴らしい山荘を提供してくださつた藤原さん、今回の企画の主に進めていた本間さんには本当に部員一同大変お世話になつた。

今回は、男子部員二名（伊藤さん、長島さん。共に3年生）は18日から、女子部員二名（菊田、原。共に2年生）は19日から山入し、奥秩父登山の信州側基地として有名な廻り日平において「山歩きと岩登り」を経験すると

二・飯盛山登山（女子部員）

10月19日 曇りのち晴れ

メンバー：蛭川さん、宮武さん、菊田、原。
国立駅南口集合（6:15）→飯盛山山行開始（9:05）→頂上到着（10:23）→下山開始（10:46）→下山（11:56）→川上村文化センター（13時半頃）→藤原さん山荘（14:30）

飯盛山には9時前に到着、しかし天気は曇りで、山の入口にある駐車場から本来八ヶ岳などが見えるはずが、曇つていて展望が開けていなかつた。天気が回復することを望みつつ、9時5分から山行開始。菊田、原、蛭川さん、宮武さんの順で登り始める。

蛭川さんは腰を痛めているとおっしゃつていて、少しペースを落としての山行となつた。初めは比較的背の低い木々に囲まれた小道を沿うように登つており、少し開けると上が木に覆われていない、小岩が坂上に並んでいる道が進んだ。その後森の中に入ると、もともと曇りだつたせいか、周りが全く見えない道に入る。雨が降つたようで、地面は湿つており、落ち葉に足が取られそうになるところもあつた。道中は蛭川さん、宮武さんとOBの方々の一橋の風潮と、私が話す一橋の今風潮の違いに花が咲く。今の一橋（大学全体に言えることだが）は出席が厳しかつたり、学内禁酒だつたりと、先生の生徒に対する干涉

度が高まっているなど、様々な変化を知る」とができるとも楽しかった。

道中雨が降ってきたため、雨具を使用。途中に鹿柵があり、鹿が山を降りて作物に影響を及ぼさないようにしているところも見られた。また、植物の種を植えているところもあり、山環境の維持への様々な取り組みが見られた。頂上に着き、周りを見渡すと霧で見事に何も見えなかつた。少し落胆したが、無事山の頂上にたどり着いたことに安心、頂上の写真撮影(10:23)。頂上で一休みすることに



左から原、菊田、蛭川、宮武

し、宮武さんからみかん、蛭川さんからチーズを頂いた。

約二十分後に下山を開始する。下山は上りの時より速いペースで下り、途中山の花や木々の解説をしていただいた。段々と天気も晴れてきて、すれ違う登山者も増えてきた。O Bの方々が、部員の国立音大の菊田さんの下り方がとてもよい、(彼女はこまで小さく丁寧に降りていた)とおっしゃついて、私もそれに見習おう、と思った。11:55に下山完了、天気も晴れやかになり、景色も広がっていた。駐車場のところで山々をバックに記念撮影し、飯盛山を後にしてることができ良かつたと思う。

三・川上村文化センター

蛭川さんの提案により、山登りの後、川上村文化センターに縄文遺跡の見学に行くことになった。縄文遺跡に詳しい蛭川さんに、道中縄文、弥生時代の時代背景等を伺い、受験のとき日本史の記述問題で暗記したこと思い出した。

川上村はレタスが有名で、「レタス富豪」と言われるほど、村全体が裕福であるよう。そのせいか?、川上村文化センターはとても綺麗な大きな施設であった。二階に、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、近代までの遺跡が

飾つてあった。旧石器時代の打製石器から始まり、縄文土器と弥生土器の違い、土偶など、歴史の神秘に惹かれ、教科書で見ていた遺跡を実際に見ることができ、日本史が好きであつた私はとても楽しい時間を過ごせた。また、弥生時代の遺跡の使用方法についても議論し、土偶や石棒といった具体的な用法が想定しにくい又はまだ発見されていないものに関しては、祭場の時に使用したのではないかという意見でまとまつた。歴史を学び、実物の遺跡を見るることはとても楽しいと感じた。

四・藤原さんの山荘

山荘には2:30頃に到着、夜の山荘はかなり冷えるために早めにお風呂に入り、藤原さんの山荘についているクライミング施設を女子会が体験した。夜は岩根山荘でO B現役の懇親会が行われ、現役部員の自己紹介や今後の意向、O Bの方々の現役時代のお話や、今後O Bと現役の合同山行を増やしていくこう、などのとてもありがたいお話や提案をしていただき、部員一同とても楽しく過ごせた。次の日は雨のため山行できず、当初女子は金峰山に登る計画だったが、そのまま帰ることになってしまった。私と菊田さんは藤原さんの山荘の二軒隣にある水谷さんの山荘にお邪魔し、色々お話を伺い、その後宮武さんの車で、

現役部員全員で帰途についた。

五・山行を振り返って

今回の山行において、OBの方々に大変お世話になった。特に私は初めてのOBの方々との合同の山行であり、ご一緒させていただいた山行はもちろん、道中の今とは違う一橋の姿や山の木々や花の名前を教えていただき、またこういった機会を得られるととても嬉しいと感じた。ただ、二日目の金峰山が雨で登れなかつたことだけが本当に残念であつたため、今度再チャレンジしたいと思う。

■学生の感想

長島 弘賢（商学部3年）

私にとって、今回の廻り目平山行は初めての山行であり、とても新鮮なものでありました。まずは、出発に関しては、朝6時30分の八王子に集合のため、同じ部員の伊藤君の国立の家に泊まり、朝一緒に出発することになりました。そのため、なかなか熟睡することもできず、睡眠不足の中での山行でしたが、そのような睡眠不足も、金峰山の岩肌を登つているうちに雲海の美しさに解消され、自分自

身の経験がない山、そして自然の美しさに圧倒されました。

二日目のロツククライミングとボルダリングを経験しました。あいにくの雨で、本格的なロツククライミングは経験できませんでしたが、基礎を学べたことは、大変有意義でした。ボルダリングは藤原さんの別荘で基礎を学ぶことができました。ボルダリングに必要な能力を肌で感じることができたので、今後はそれを身につけていきたいと思います。

三日目は雨天のため山行ができなかつたので、また次の機会に楽しみを取つておいておきたいと思います。

今回の山行を通した大きな感動は、やはり1日目の金峰山の雲海であると考えます。今後は、様々な山行を通して、いろいろな自然の感動を味わつていきたいと思います。

伊藤 久裕（商学部3年）

金峰山の登りは、雲海が見えるなど、絶景が後押ししてくれた事もあり、非常に楽しく登れました。ただ、山頂でモヤがかかつていて、見渡す事が出来たのはうれしかったです。川上村の博物館では、川上村の文化やそこに暮らしていた繩文人や弥生人の遺跡の展示を見学し、山以外にも川上村について知ることもあり、登りよりも大変でした。でも、まだまだ登れそうな元気は残つてました。

一方、ロツククライミングの感想ですが、雨で体験があまり出来なかつたが故の無念さに尽きます。ただ、藤原さん宅の室内クライミングを制覇できなかつたのは非常に悔しかつたです。またの機会があれば、是非、天気にも恵まれ充実した体験ができる事を祈るばかりです。

菊田 果琳（国立音楽大学2年）

今回の合宿では、天候には恵まれなかつたものの、貴重な体験をする事ができました。

初日は午前中に飯盛山登山、午後に川上村の縄文時代遺跡の博物館を見学。

飯盛山の山行は、気温が低く小雨が降つている中での登山でした。途中、霧で先まで渡せない道もあり、山頂では周りを雲で囲まれ景色を見ることはできませんでした。また気温が低く、改めてこの時期の雨具や防寒具の必要性を痛感しました。しかし下山し登り口に着く頃には、天気が少し回復し雲が無くなつていて、駐車場から周囲の美しい山並を見渡す事が出来たのはうれしかつたです。

川上村の博物館では、川上村の文化やそこに暮らしていた繩文人や弥生人の遺跡の展示を見学し、山以外にも川上村について知ることもあり、登りよりも大変でした。でも、

とができました。

夜の懇親会では、OBの方々の様々な登山の体験を聞き、改めて登山を興味深く思いました。この合宿でかなわなかつた金峰山にも、またの機会にぜひ挑戦したいです。

今回の合宿全般で、とても貴重な時間を過ごしました。雨の中での登山も終わってみれば良い体験だったと思います。OBの方々の企画、山荘をご提供いただいたことも、本当にありがとうございました。

会務報告

平成24年度針葉樹会総会

2013年7月9日 如水会館

1 幹事会決定・承認事項の報告

- (1)副会長の交代（三井博→小島和人）
- (2)担当幹事の交代（下記）

2 平成24年度活動報告

- (1)総会、評議員会、幹事会

①幹事会 6月4日

②評議員会 6月12日

③総会 6月21日

会員総数 151名（特別会員3名）で、

正会員は148名 1/3は50名 出席者数（名譽・特別会員を含まず）22名、委任状による出席者数 67名、合計89名出席。（重要案件については4分の3以上の賛成を得るよう努力する…65名）

- (2)創部90周年事業について
- 創部90周年記念事業進捗報告
①針葉樹15号発行
②富士登山
③夜叉神峯周辺の登山道整備

以下の議題について報告があり、了承されました。

1(1)規約の改定

「評議員会」を廃止し、相談役を新たに設けること。

「総会」の開催時期を変更すること。

新たに「保険」担当幹事を設け、一橋山岳

会として、山岳保険への加入を促進すること。

*一橋山岳部による活動報告及び活動計画

*澁谷一郎会員に依る「創部90周年に因んで」の講話

2(5)会合

①月見の宴 11月3日午後、国立部室にて

事前に部室周囲の草刈り。キャンバス内飲酒厳禁が徹底し、盛り上がりに欠けた。学生部員に山讚賦の指導が出来た。

（会員）竹中、佐藤（力）、宮武、井草、前神

（学生）小宮山、町田、川尻

②新年会 1月22日 出席者22名（学生2名）

90周年記念事業の企画進捗状況報告、他。

③新緑の宴（部室、小樽食堂） 5月18日

（会員）佐藤（力）、佐藤（久）、宮武、井草、前神、兵藤、松田、川名 （学生）小宮山、町田、峯、川尻、細川、新入部員候補4名。

学生部員用の装備品寄贈要請。（シユラフ、ザック他）

(3)懇親山行

①三ツ頭山 5月26日

②妙高・火打山 7月28日～30日

③大山 11月25日

④八ヶ岳・飯盛山 5月11日

山行幹事

S 40

本間 浩

(留任)

佐藤 恭

(退任)

佐藤 久尚

(留任)

三井 博

(退任)

宮武 幸久

(留任)

宮武 幸久

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

佐藤 力

(留任)

学生幹事

S 46

S 45

S 46

S 40

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

H P 幹事

S 52

S 51

S 45

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

図書幹事

S 43

S 42

S 43

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

(4)監事

S 38

S 42

S 43

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

6 収支報告

S 38

S 42

S 43

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

7 見込み(案)

S 47

S 42

S 43

(新任)

前神 直樹

(留任)

宮武 幸久

(留任)

佐藤 力

(留任)

佐藤 活朗

(留任)

金子 晴彦

(留任)

佐藤 力

(留任)

金子 晴彦

(留任)

金子 晴彦

(留任)

金子 晴彦

(留任)

8 学生の活動状況

(1)部の組織体制

(大学に登録しているメンバ―)

小宮山 尚与志

商学部 4年部長

法学部 4年副部長

社会学部 4年広報

経済学部 3年企画広報

町田 広樹

法学部 4年会計

社会学部 4年広報

峯 弘卓

社会学部 4年広報

経済学部 3年企画広報

(2)山岳部活動報告・活動計画、予算

菊田 果琳

国音大 2年

社会学部 2年

経済学部 3年企画広報

I 実施報告

小島 和人

社会学部 2年

経済学部 3年企画広報

3 プロジェクトに総額130万円の予算を頂き、各プロジェクトリーダーのもとほぼ所期の目標を達成した。各プロジェクトの実施報告は本年の新年会並びに針葉樹会報125号126号で発表されてるので重複を避けるが、以下に反省点を中心に述べる。

1. 富士山登山
8月5日、6日に無事終わった。一般学生

2. 芦安登山道整備

6月16日、17日及び23日、24日で実施。

8月19日に本間、宮武、小島で完成度チェックの上10月21日に最終作業。5日間の作業に述べ90名(針葉樹会29名、芦安ファンクラブ31名、南アルプス市の富士通アイ・ネットワークシステムズ30名)の参加を得た。

針葉樹会も予算をオーバーして37万4千円ほどの出費となつたが、芦安ファンクラブも資材を持ち出し31名の無償奉仕、富士通も車代など会社負担の30名無償奉仕であった。

10月27日の記念山行には16名の針葉樹会員、学生部員2名が参加し懇親会費用を負担して芦安および富士通の皆さんとともに山道修復をお祝い出来た。

反省点としては、①会員の参加者が少なすぎた。②予算オーバー。記念山行参加の会員の好意で4万4千円の寄付があり、不足額は

まずまずの成果。学生の参加者、針葉樹会員の参加が少なく、少々寂しかつた。広報・募集方法など工夫を要す。参加呼びかけは教員・職員も含めるぐらいの気持ちが欲しい。費用的には学生も随分楽しんでいたのでもう少し学生の個人費用負担があつても良かつたかもともおもわれる。

針葉樹発行予算残の流用をご承認いただきたい。③作業管理不足。もっと芦安の塩沢・清水さんたちと打ち合わせ、効率的に作業を進めるべきであった。③南アルプス市及び山梨県への根回しに不足する部分があつた様子（新聞発表後、県から塩沢館長にクレームがあつた模様）。



2013年9月22日、檜尾峠～高谷山の回収作業を終えて 高谷山で

3. 針葉樹15号
本件推進幹事、岡田、中村（雅）会員のご努力で、原稿も集まらない状況から始まつたが立派な15号350部の発行ができた。特別寄稿の中村（保）会員のご支援にも感謝したい。会員各位のご協力で広告費13万円のご協力を頂いた。

II 今後の活動

昨年の新年会・3月臨時総会・6月総会での検討段階で90周年事業は「針葉樹15号」で最近の4半世紀の活動を振り返り、山岳部の母体である大学・現役学生との絆、そして小谷部先輩以来の芦安との絆を深める活動に会員が協力して取り組む機会を作る。そのこと

によって百周年に向けて針葉樹会員の年代を超えた、そして学生部員を交えた交流を強くしたい」という趣旨で始まつたと理解しています。現役、針葉樹会員とともに力不足ですがこの趣旨に沿つて体力相応の継続的活動を続けることを提案したい。諸般の情勢を考えて一般学生を勧誘しての富士山登山は中断し、

芦安登山道の修復事業を継続させたい。まずは宮武、小宮山、峯、小島で現地調査を実施した。冬でも使う人が出てきたとのこと。崖崩れは現地で修復済。資材残20本。檜尾峠～高谷山改善作業を芦安主導で実施するのに予

算15万円で協力する。実施時期は9～10月を予定する。
(25年度の活動については次号で報告いたします)

塩沢久仙・南アルプス芦安山岳館館長が瑞宝単光章を受賞

11月3日付の東京新聞によれば、2013年秋の叙勲で、「南アルプス芦安山岳館」の塩沢久仙館長が瑞宝単光章を受賞されました。受章は、「人目につきにくい分野」で山岳指導員として約50年、登山者救助に尽力した、ことによります。

言うまでも無く、塩沢館長と一緒に山岳館内の「針葉樹文庫」の設立に始まり、山岳部創立90周年事業「高谷山周辺の登山道整備」への応援協力と、深い信頼関係にあります。塩沢館長の受賞は、館長ご自身のみならず、我々にも慶事です。嬉しく、お目出たいことです。

以上、皆さまにご報告する次第です。

(本間浩)

針葉樹会平成24年度一般会計決算(案)
(平成24年6月1日—25年5月31日)

2013. 6. 19
(単位 円)

項目	支出		収入		
	実績	予算	項目	実績	予算
A) Cash Base					
会報発行費	368,130	420,000	前年度繰越 納入会費	2,348,953	2,348,953
山岳部補助	144,420	100,000	(普通会費)	(400,000)	500,000
通信連絡費	10,154	80,000	(賛助会費)	(176,000)	300,000
慶弔費	19,246	30,000	会合余剰金	41,640	50,000
学生保険補助	0	20,000	預金利子・利息	316	500
日本山岳会費	0	24,000	会報販売代金	9,000	10,000
Home Page 年間維持経費	72,900	73,000	針葉樹15号販売代金	15,000	0
図書関係費用	11,000	20,000	針葉樹15号広告掲載料	130,000	0
芦安プロジェクト	300,840	300,000			
富士山プロジェクト	184,810	200,000	(収入小計)	771,956	880,500
針葉樹15号プロジェクト	900,907	800,000			
(支出小計)	2,012,407	2,067,000			
次期繰り越し金	1,108,502	1,142,453			
合計	3,120,909	3,209,453	合計	3,120,909	3,209,453

三菱東京UFJ 2,020,766、郵便貯金 328,187

今年度会費支払者65人、内翌年度以降分前払者33人
賛助会費支払者 20人

針葉樹会報 124号、125号、126号分

三菱東京UFJ 1,108,502

針葉樹会平成24年度遭難対策基金決算(案)
(平成24年6月1日—25年5月31日)

項目	支出		収入		
	実績	予算	項目	実績	予算
支出					
0	0	0	前年度繰越	3,242,068	3,242,068
			うち遭難対策基金	2,342,068	2,342,068
			うち遠征基金	900,000	900,000
			利息他	651	800
(年度内実支出 小計)	0	0	(年度内実収入 小計)	651	800
次年度繰越	3,242,719	3,242,868			
うち遭難対策基金	2,342,719	2,342,868			
うち遠征基金	900,000	900,000			
合計	3,242,719	3,242,868	合計	3,242,719	3,242,868

三菱東京UFJ定期預金3, 242, 068円

針葉樹会平成25年度 一般会計予算(案)
(平成25年6月1日～平成26年5月31日)

2013.6.19
(単位 円)

項目	支出		収入		
	金額	前期実績	項目	金額	前期実績
支出					
会報発行費	420,000	368,130	前年度繰越	1,108,502	2,348,953
山岳部補助	100,000	144,420	納入会費	500,000	576,000
通信連絡費	30,000	10,154	(普通会費)	(400,000)	(400,000)
慶弔費	30,000	19,246	(賛助会費)	(100,000)	(176,000)
学生保険補助	48,000	0	会合余剰金	40,000	41,640
日本山岳会会費	36,000	0	預金利子・利息	300	316
Home Page 年間維持経費	70,000	72,900	会報販売代金	9,000	9,000
図書関係費用	20,000	11,000	針葉樹15号販売代金	0	15,000
(小計)	754,000	622,230	針葉樹15号広告掲載料	0	130,000
90周年記念事業関係	150,000	1,390,177			
(針葉樹15号発行)	0	900,907	(収入小計)	549,300	771,956
(芦安登山道整備)	150,000	300,840			
(富士山登山)	0	184,810			
支出合計	904,000	2,012,407			
次年度への繰越	753,802	1,108,502			
合計	1,657,802	3,120,909	合計	1,657,802	3,120,909

会報は年3回発行を予定

慶弔費は過去の実績を勘案し計上
学生部員12人を想定
日本山岳会会費23—25年度分

芦安の針葉樹会報・部室の製本を予定

芦安登山道整備第2次計画

針葉樹会平成25年度 遭難対策基金予算(案)
(平成25年6月1日～平成26年5月31日)

項目	支出		収入		
	金額	前期実績	項目	金額	前期実績
支出					
0	0	0	前年度繰越	3,242,719	3,242,068
			うち遭難対策基金	2,342,719	2,342,068
(年度内支出 小計)	0	0	うち遠征基金	900,000	900,000
			利息他	600	651
次年度繰越	3,243,319	3,242,719			
うち遭難対策基金	2,343,319	2,342,719	(年度内収入 小計)	600	651
うち遠征基金	900,000	900,000			
合計	3,243,319	3,242,719	合計	3,243,319	3,242,719

預金利 O. 018%を想定

■会員の近況報告抜粋(返信はがきより)

昭28 海老澤齊 中樹会も4名に減り、残念。

昭33 小林博 介護から解放され、自発的に健康維持、趣味等に注力。部活動の資金支援に協力する所存。

昭34 沢木一夫 学生部員も段々増加しているとのこと、ご同慶の至りです。関係各位のご努力に感服しております。

昭34 市川陽一 以前と全く変わりません。自宅が「京都北山」の言わば登山口にあたる至便の場所(幸いにして)にありますので頻繁に「山歩き」を励行して居ります。間もなく80才になりますので、体力の衰えは顕著で、特にバランス感覚、山登りと言るのははばかられ、「山歩き」です。100mに満たない山稜ですが登山者が少なく静かで気に入っています。

昭36 有賀盈 6月初め新緑の梓川畔を徳澤園まで散策。倉知さんの「追跡 一橋山岳部の軌跡」を思い出しながら前穂高東壁を眺めきました。

昭39 蝶川隆夫 なにかと慌ただしい毎日です。

昭39 竹中彰 相変わらず日本山岳会東京多摩支部の活動(登山教室、自然保護、山

の日制定など)中心に結構忙しくしていま

す。先日は、自然保護委員会活動で、初めてみさか道から三ツ峠に登り、あつけなく着いたのに驚きました。以前学生さんと三ツ峠駅から登りしんどかった印象が強いので。三ツ峠山荘の主人中村光吉さん(JA C会員)の案内、指導でアツモリソウの植

生保護のための草原のテンニンソウ、ササなどの除草作業を行いました。嘗てに比べて盗掘などで株数は激減したそうですが、鹿柵設置や地道な保護活動で少しづつ復活しつつあるとのことです。その他頂上周辺でカモメラン、ハコネシロガネソウ、オノエランなどなど植物に詳しい会員の解説でこの時期の多くの花に出会えました。

昭39 村上泰介 人名地名の固有名詞はほぼ50%の確率で思い出せない! 最近は普通名詞が怪しくなってきましたぜ! あれあれあの牧場に居る動物、何ていうんでしたつけ? え? ああそうそう! 馬でした! ってところです。

昭40 小島和人 体のあちこちが痛くなりますが何とか元気に過ごしています。5月の三四郎会天城山の後何も登つていませんが、8月黒部の赤木沢を4度目の正直で目

をみる平凡なれど平和なり!!!!

昭43 中村雅明 藤原さん(S44卒)のお蔭で2~3回/月の山行を楽しんでいます。8月初の4度目の挑戦、赤木沢遡行。

9月初から約1ヶ月間、カラコルム・ファンザからクンジエラブ峠を越えて中国天山路の旅を予定しています。

昭46 金子晴彦 岡山里山暮らしを開始。ようやく様々な収穫を手にできるようになり、山とはまた別の自然の恵みを享受しております。毎日の労働により5ヶ月で約4kg減量、胴周りは78cmとなりました。ジムより確実に効果があるようです。

昭51 加藤博行 新潟で元気にしております。

昭55 岡部寛史 当地、毎日のようにデモが続き、治安悪化も心配されていますが、元氣お祭り好きの国民ですので、私の目には、なんだか深刻さが欠けているように映ります。さりとて、人数が集まると巨大パワーを發揮する人たち、注意は怠れません。コシフエデ杯決勝の翌日をゼネストにしようという呼びかけがFacebookに流れ、「いいね」の反応が瞬く間に全土に広がり、あわやゼネスト決行かと危ぶまれましたが、アツサリ延期になってしまいました。コンフェデ杯決勝の翌日をお休みにしようなど

という浅はかな提案に、やっぱりブラジル人かなー、決勝当日から始めれば効果も最大限に期待できるのに、と思つた私ですが、

結局流れたのは、やはりブラジル人の良心でしようかね。それでも、経済、政治の問題は、山あり、谷あり、国情は深刻化しています。地形的には、登る山も見る谷も無いに等しいこの国ですが、まあ、適当に人生の轟轟ぎに精出しています。みなさまもどうかお元気で。

昭55 **米田篤裕** 山とは書籍・雑誌でのおつきあいになっています。

昭56 **小林修** 山に登らず墮落した岳人ですが、近い年代のOBとの呑み会には出来

るだけ参加させて戴いております。アウトドアからインドアの剣道に目下熱中しています。（夏の熱中症には気を付けつつ。笑）

昭59 **稻毛尚之** 残念ながら関西勤務のため都合がつかず欠席させて頂きます。山岳部も部員が増えて来ている様子、山岳部の復興と総会の盛会を祈念申し上げます。

昭60 **石丸章治** 時時もHUHACでの諸先輩方のメールを拝読させて戴いております。

平6 **田形祐樹** 針葉樹会の方は、まだ誰も遊びに来ていただいておりませんので、さびしいです。遊びに来て下さい。

三月会通信

■平成25年6月17日■

【出席者】竹中、佐藤（久）、中村（雅）、高崎（俊、記録）

▽竹中さんから「日本山岳会の、会費滞納除籍対象者」リストの筆頭に一橋山岳部が掲載されていて、驚愕した。各大学の山岳部も部員

減少対策の一つとして、山岳会学生部の活動で横に繋がる活動を模索している様子が見えます。（山の熱中症には気を付けつつ。笑）

▽一方、山岳部の方は、活気のある新入部員も増えて、少しづつではありますが、「山岳部」らしい活動が始まつた様です。現4年生の知識・経験をぜひ下級生に伝えて欲しいので、特に学生幹事の奮起を期待しています。6月29日には、部室で学生・OBの懇談会が開催されます。

▽ごく最近、「オーション会」の皆さんのが五街道踏破を完成された様です。石和田さんの玄人はだしの記録がホームページでご覧になれます。

●山行記録

竹中 5／12 大岳山（神社→大岳山→馬頭刈尾根→バス停） 東京多摩支部初級登山教室（第1期）の付き添い。前2回の計画が雨天etc. で流れ、三度目の正直。

5／18 大岳山（神社→大岳山→神社） 東京多摩支部初級登山教室（第2期）の付き添い。一週間で2回も大岳山に登る。読売新聞の取材を受ける。

5／25 丹沢・檜洞丸 東京多摩支部定例山行。シロヤシオの盛りに花見に。

6／2 高尾山 東京で初の「山の日」制定プロジェクトの集会。集会（多摩太鼓演舞、挨拶etc.）後に6号路→3号路。要所でセッコク等の花を眺める。

6／7～8 上高地・明神池散策、岳沢小屋へ。東京多摩支部初級登山教室をJAC上高地山岳研究所に宿泊し、初日に座学、明神池散策、2日目に岳沢小屋まで登り、総勢35名で雪渓上の歩き方etc. 研修。

6／14 メトロ会世話人懇談会で学習院大日光光徳小屋へ。2日目の14日に戦場ヶ原下の千手ヶ浜→龍頭の滝下を歩く。

す。「一橋山岳会（ホームページ）」から、「サロン」、「街道歩き」とクリックされると「街道歩きコーナー」にたどり着きます。

6／6 御前山 東京多摩支部初心者登山教

室（4～6月）の最後の実習で御前山へ。月

夜見第2駐車場から往復。

中村（雅） 5／25 万二郎岳～万三郎岳 三

四郎会山行（小島、坂井、半場、佐藤（力）、

岡田、中村）。アマギシャクナゲ、トウゴクミ

ツバツツジがきれいだった。

6／2～4 藤原山荘をベースにした奥秩父

山行（藤原さんと二人）

6／2 信濃川上～川端下～原山荘（泊）。山

莊から廻り目尾根岩コース往復。

6／3 山莊から金峰山往復。

6／4 山莊～梓山～甲武信岳～笛吹川東沢釜

の沢下降～西沢渓谷入り口

6／8 熊倉山～西谷山（藤原さんと二人、

長沢背稜シリーズ3回目）武州日野～熊倉山

～西谷山～三ツドッケ～東日原

高崎（俊） 6／9 北八ヶ岳・天狗岳 洪の

湯～黒百合平～中山峠～東天狗岳（往路）

～波の湯 駐車場はガラガラだったが、登山

道には結構な人出。中高年の団体ツアーハーは減つて、若い少人数のパーティーガ増えた様だ。

●山行計画

竹中 6／20, 21 三ツ峠山、アツモリソウ保護活動に東京多摩支部自然保護委員会二活動

に参加。

中村（雅） 6／24 高鈴山～堅破山～八溝山

茨城県の名山ハシゴ旅。藤原、宮武、戸川、

中村。（宮武車で車山行）

7月中旬 白山。家内と二人。

■平成25年7月16日■

【出席者】 佐藤（久）、前神、高崎（俊、記録）

▽年次総会の直後であつた為もあるのでしよう

か、今回も出席者が3名と、寂しい会合になりました。

▽部員が8名在籍する現役学生部員の活動をどう支援していくか、が喫緊の課題です。特に、

萬が一、事故が起きた場合の対策は直ぐにでもとつておかねばならない事柄ですので、重点的に話し合いました。結論として、とりあえず、日本山岳救助機構合同会社（略称「JRCO（ジロー）」の会員として登録する事にしました。入会金2,000円、年会費2,000円プラス事後分担金（750円～1,500円の見込み）で、捜索・救助費用が1会員1期間330万円補填されます。10人以上の加入で5%の割引が受けられます。まだこのような山岳保険に加入されていない会員の

方々の加入を歓迎します。佐藤（久）、高崎（俊）までご連絡下さい。

▽多分4回目の挑戦になるのではないかと思われますが、今年も小島さん、中村（雅）さん、川名さんが薬師岳赤木沢に向かわれます。今年は、若手？から前神さん、兵藤さん、に加えて現役学生2名が参加されるようで、天候にさえ恵まれれば成功間違いなしでしょう。

■平成25年8月19日■

【出席者】 佐藤、高崎（治）、三井、竹中、本間、

小島、岡田、中村、小宮山（学生）、高崎（俊、記録）

▽猛暑にもかかわらず、久しぶりに大勢の会員の皆さんのが参加されました。やはり大人数の方々に出席して頂けると、話題の幅も広がり、深さも増します。

▽今回は、4年の歳月をかけてようやく成就しました。黒部川・赤木沢の遡行の話題から始まりました。メンバーは4度目の挑戦となる小島さん（昭40年）、中村雅さん（昭43年）、川名さん（昭63年）に加えて、前神さん（昭51年）、兵藤さん（昭52年）の強力な助っ人と、現役4年生の小宮山さん、町田さんが参加しま

した。前日まで日本各地で続いたゲリラ豪雨の影響が心配されました。予想通り、黒部川全域の水量は多めだった様です。赤木沢出合今までの水位の上がった流れには苦労されたようで、意図しない水泳・水浴も何度も強いられたという話でした。学生二人と兵藤さんは太郎平経由、前神さんは三俣山荘からそれぞれ下山され、執念の3人組は裏銀座コースを鳥帽子岳まで縦走の後、ブナ立尾根を下りました。完登おめでとうございます。

▽北アルプス主稜線一帯では、幕営制限が厳しくなつて、テントを使つた縦走が困難になつてきている様です。小屋泊まりが強制されると、その費用も馬鹿になりません。

▽久しく出席されなかつた本間さんが顔を見せてくれました。「贅沢病」と言われる痛風に悩まされたものの、ほぼ完治され、山登りも軽い所から再開されるとの事でした。先ずは夜叉神峠の登山道から、になるのでしょうか。

▽竹中さんが、「H U H A C」でも紹介されています「山の病氣」の本を持参されました。それぞれに具体的な対処法が書かれていますが、しばらく座骨神経痛で苦労された高崎（治）さんが、「こうやって直した」を実演されました。膝と腹も下につけたまま、腕を伸ばし胸を上げてそらす形を10秒、「腕立て伏せ」を5～10回、朝昼晩繰り返したら2週間

で直つたとのことでした。勿論整形外科医の指示による。

▽また、最近刊行された日本山岳会の「山岳」（2013年、VOL. 108）には「針葉樹15号」の書評が掲載されています。「正直に言うと、26年間の記録には瞠目すべきものはない」、「90年間の年表と文献集と言つた基礎資料の整理と一覧の作成は地味なものだ

が、山岳部にこのような労を惜しまない人はいるものだと頭が下がる」、「活動報告であるとともに、大学山岳部の存亡をかけた26年間の苦闘の記録であるとも言えよう」「大学という教育機関は、死という危険を常に内包する山岳部の存在を歓迎しているとは言えない時代なのである」、「大学山岳部OB諸氏に読んで欲しい」等々の記述があります。

▽これまた久しぶりになりますが、佐薙さんにによる「富士山講座」が再開されました。今回は「富士山頂上・八峯の名前」について。昭文社・山と高原地図シリーズ「富士山・御坂・愛鷹」、青木書店・深田久弥「富士山」、岩波新書・小山真人「富士山（大自然への道案内）」のそれぞれに掲載されている頂上の地図を参考しながらの講説でした。「あの土地を管理しているのは、富士宮の浅間神社であるから、そこがきちんとしたものを持っているに違いない」調べてみよう、という事になりました。

また佐薙さんから、（富士山研究の）「後継者募集」の打診がありましたが、この席では積極的に手を上げた方はありませんでした。自薦他薦を募っています。手始めに「富士山検定」をトライされる方のために、「傾向と対策」のウェブのサイトは <http://www.fujisankentei.jp> です。

▽現役の学生部員の皆さんとの「懇親山行」の提案がありました。学生さんは幕営、OBは小屋泊まりの出来る適当な場所の候補として、千曲川支流の金峰山川の上流の、国師岳、金峰山、小川山等に囲まれた「廻り目平」キャンプ場が上がっています。時期は、紅葉の美しい10月中旬に、本間さん・中村さんに加えて、此處に山荘をお持ちの藤原さん（昭44年）に企画して頂こうという事になりました。

▽学生さんの山行計画としては、9月初旬に幕営訓練、9月中旬に穂高、を計画している様です。また、日常のトレーニング計画も立案中の事です。

▽佐薙さんからは、8月の下旬に南アルプス・仙丈・甲斐駒に登るので、同伴者募集の話がありました。甲府からバスで広河原経由北沢峠に入り小屋泊まり、あわよくば3,000m級の両峰を狙うそうです。また、小島さんからは、来年の7月に知床をテントを担いで縦走する計画、8月初旬に中村（雅）夫妻に

同行して白山に登るうと、いう計画が披露されました。岡田さんは、来年の残雪期に鹿島槍に再挑戦の計画を考えているそうです。「山の会」らしい話がドンドン出て来て、頗もしい限りです。

● 山行報告

中村（雅） 7／20 丹沢・勘七ノ沢 藤原さん企画。小島・佐藤（久）、中村が参加。藤原さんのザイル確保に助けられて大滝（F5）以外は直登。ヒルに悩まされたが楽しい沢登りだった。

8／2～8／7 北アルプス・赤木沢 小島、中村、前神、兵藤、川名、小宮山、町田

8／2 夜行バス 新宿→富山

8／3 富山→折立→太郎平→薬師沢小屋

8／4 赤木沢出合→中俣乗越→黒部五郎岳→黒部五郎小屋

8／5 →三俣山荘→鷲羽岳→ワリモ岳→水晶小屋

8／6 →真砂岳→野口五郎岳→鳥帽子小屋

8／7 烏帽子岳往復→ブナ立尾根を下山、赤木沢出合までは悪かった。中俣乗越から兵

藤さん・学生は太郎平へ。三俣山荘から前神さんは新穂高温泉へ下山。小島・中村・川名

3人で裏銀座継走。

8／18 阿武隈山地・大滝根山 藤原さんに

誘われて初めて阿武隈山地へ。暑かったです。

竹中 7／27 奥多摩・鷹ノ巣山、途中撤退。

多摩支部初級登山教室実登に付き添い。前夜からの下痢症状のため途中（神社）から下山。

本間 なし

三井 なし

岡田 なし

高崎 なし

小島 7／20 丹沢・勘七ノ沢 藤原さん

われて厳しかったけれど楽しいトレーニングになりました。

8／2～8／7 上記（中村雅さん）に同じ。

● 山行計画

中村（雅） 9／9～10／4 インド・ヒマラヤ・トレッキング（北インド・ザンスカール）佐藤（久）さんと、4年連続で海外トレッキング。

▽ 3月会の博識・ウンチク豊かな人々の系譜

▽ 佐薙さん 上原さん 遠藤さん 高橋さん

蛭川さんⅡが、高橋さんの体調不良、蛭川さんの札幌移住で寂しくなったとの声があがつて、先月の佐薙さんの富士山学に続き、今月の遠藤さんの一見雑学風（これは氏の東京つ子的なシャイな語り口のせいです）一聴学問的深さの有る博識には笑声後感

服でした。10月の3月会には蛭川さんが上京出席の予定です。これも楽しみです。

▽ 今月は書記が馴れないせいで、「登った山」「登る山」の記録を忘れました。言い訳しますが、先々のことはイロイロ検討、以下の通りです。

会員の皆さんにお忙しい方が多いので、山行事の連絡を出来るだけ早めようではないか、とのご意見。成る程御尤も、ということです、先ず。

▽ 晩秋の懇親山行

12月1日（日） 九鬼山（富士急沿線 秋麗富士12景） 詳細は追って連絡します。

参加申し込み受付中、奮つてご参加下さい。

▽ 来年の懇親山行計画は年初1月に発信しま

■ 平成25年9月17日（火） ■

【出席者】 三井、遠藤、小島、宮武、本間（記録）

▽ 3月会の博識・ウンチク豊かな人々の系譜

▽ 佐薙さん 上原さん 遠藤さん 高橋さん

蛭川さんⅡが、高橋さんの体調不良、蛭川さんの札幌移住で寂しくなったとの声があがつて、先月の佐薙さんの富士山学に続き、今月の遠藤さんの一見雑学風（これは氏の東京つ子的なシャイな語り口のせいです）一聴学問的深さの有る博識には笑声後感

服でした。10月の3月会には蛭川さんが上京出席の予定です。これも楽しみです。

▽ 今月は書記が馴れないせいで、「登った山」「登る山」の記録を忘れました。言い訳しますが、先々のことはイロイロ検討、以下の通りです。

会員の皆さんにお忙しい方が多いので、山行事の連絡を出来るだけ早めようではないか、とのご意見。成る程御尤も、ということです、先ず。

▽ 晩秋の懇親山行

12月1日（日） 九鬼山（富士急沿線 秋麗富士12景） 詳細は追って連絡します。

参加申し込み受付中、奮つてご参加下さい。

▽ 来年の懇親山行計画は年初1月に発信しま

す。優先取り扱いの程を。忙しいことでは〇B以上に学生です。山岳部でも学生の生活実態にあつた年間山行スケジュールを組むように、関係各位が相談に乗つてやつては如何？部員勧誘にも使えるのでは？

▽遠藤「山城守」晶士氏の講話

一、「日本百名城」も残り少くなり、来年4月6日（シロの日）に100城目を達成。盛大な打ち上げを行うとのこと。何分日本全国対象ですから、地方の針葉樹会員との交流も數あつたと聞きました。この人たちが一堂に会したら壯觀・快事です。次は「ヨーロッパの百名城」を「計画」とのこと。

二、芸能面は、「カラオケ」に始まり「詩吟」に進み現在「剣舞」とのこと。カラオケは男女の情を唄うが、詩吟には女が出てこない（ご不満のご様子）。詩吟は幕末に始まり（雲井龍雄？）、漢詩などに題材をとつてゐるせいか！（確かに謡われているのは、男同士の別れ、国士・武将・酒ですから女性の入る余地はなさそうです）。剣舞は詩吟に付く舞で刃引きの刀を使う、発表会が11月中旬にあるので、お稽古の為、10月19・20日の「廻り目平」山行は出席出来ないとのこと。

三、最近山歩きから平地に切り替え、「奥の細道」を歩いている。奥の細道紀行も数が多いが、要所を、例えば山寺・佐渡・象潟等々句を読

んだ場所を書いているにすぎない、云わば「点」だ。自分は道筋・行路も逐一調べ、「線」を完成させるつもり。遠藤版「奥の細道 点と線」です。

「月の山幾つ崩れて雲の峯」の月山から一旦羽黒山に戻つて鶴岡に出、船で酒田に向かつたのだが、月山から羽黒経由で鶴岡に向かつた行路が分からぬ、とのこと。鶴岡出身の小生が「ハイ調べます」と云わざるを得ない雰囲気。

「松島や　ああ松島や　松島や」、これは芭蕉

の句と言われてゐるが芭蕉ではない。一門の誰かの句でもない。大体季語がない。作者は判つています、皆さんご存知ですね。と質問、一同「知りません」。「70過ぎたインテリが、こんなことも知らないとは！」いい歳こいて恥ずかしくないか」と師匠三嘆。一同深く頭を下げ続けの状態。

▽最後は全員参加の「東北美人論」。仕事の関係

で東北に縁のあつた方が多く、この話題になりました。東北美人は自分を美人と思つて使う、発表会が11月中旬にあるので、お稽古の為、10月19・20日の「廻り目平」山行は出席出来ないとのこと。

三、最近山歩きから平地に切り替え、「奥の細道」を歩いている。奥の細道紀行も数が多いが、要所を、例えば山寺・佐渡・象潟等々句を読

り日本海が穏やかで食料・米も潤沢にある）。その後の武将も同様、国替え時に美人を。北前船も一役買つたのではないか。とかイロイロ言われますが地域レベルとなると可成り大勢連れてこないと、一人二人じや無理の様な氣もします。遠藤さんから「秋田美人は渤海系沿海州系である。かの国からの使者のための立派な迎賓館もある」この新説は、改めてジックリ聞きたいものです。

■平成25年10月21日■

【出席者】 三井、蛭川、竹中、本間、小島、佐藤（久）、中村、宮武、高崎（俊、記録）

▽猛暑が異常に長く続いた後は、急に涼しくなつたり、寒くなつたり、天候異変が懸念されるこの頃です。

▽その昔から「三月会」の常連でもあり、主役でもありました蛭川さんが久しぶりに札幌から参加されました。本間さんの快気祝い（暫く「痛風」に悩まされていましたが、恐る恐る参加された夜叉神峠の道普請で、以前の元気を確認されました。おめでとう御座います！）廻り目平合宿と、この「三月会」参加が主目的だったそうです。

▽また、竹中さんは、登山姿で現れました。日

本山岳会の全国支部集会が、静岡支部の主催で行われ、富士宮口から御殿場口のルートを歩かれた後の参加でした。

▽現役学生部員4名と針葉樹会員8名、総員12

名の参加で、廻り目平「合同山行」が実施されました。紅葉は期待外れで、最終日（20日）は雨降りと、計画通りとは行きませんでしたが、学生とOBとが一緒に「山」を楽しめたのは何よりでした。特筆すべきは、年間10

0日超の山行日数を誇る藤原さん（昭44）の衣・食・住全般に渡る献身的な支援で、これには頭が下がります。

▽学生部員は藤原山荘にお世話になりましたが、OB組は近くの「岩根山荘」にご厄介になりました。小屋も立地も良く、8000円／泊は十分その価値があります。

▽半世紀も前の昔話ですが、夏合宿の最中、中学生の団体が昼飯を終えて下山すると、彼らの持つて来た弁当が残っていました。リーダー命令でそれを回収し、不足がちの我がペーティーの昼食を補つた後、最後に残つた握り飯を、そのメンバー全員でジャンケンして、喰い手を決めた事があつたそうです。その場に居合わせた新人部員は「なんて民主的な運動部なんだ！」と感心したとかしないとか。「針葉樹」には書かれていない貴重な記録

が、こんな場面で披露されるケースがあります。

▽廻り目平へのアプローチは、信州側から千曲川を遡る方法と、甲州側から、林道で峠を越える方法とがあります。最近は、林道の整備・補修が十分ではない場合もあり、事前に営林署等に問い合わせておく必要があります。そんな事、北海道では常識だぞ、と喝が入りました。

▽廻り目平の「合同合宿」の懇親会で、山岳部2年（国立音大2年）の菊田さんが演奏・録音された山讃賦のピアノ演奏が初披露されました。これは上原さんのアドバイスを受けて中村（雅）さんが菊田さんに依頼したもので、近々ホームページから聞ける様にする予定です。今後、本格的な録音版に入れ替える、三井さんに歌つていただく……などの話がありました。

▽旧芦安村、夜叉神峠の登山道整備は、檜尾峰から高谷山に至るルートの補修がほぼ終了し、周回コースが完成した事になりました。一般登山者にもトレースしてもらい、登山道・トレッキングコースとして認知度を上げたい所です。このために、高谷山頂上に、「この道は檜尾峰からトンネル東口に至る」事を示す「指導標」が欲しいので、地元の「芦安ファンクラブ」とか、行政とかとの根回しを

せねばならない段階に来ました。本間さん、小島さんを中心に、11月には、芦安に出掛け、関係者との話を進めていくことになってる様です。

▽この「三月会」でも、滅多にない事ですが、病気の事が話題に上がる事があります。不整脈とか、心房細動とか、狭心症とか、思い当たりる節のあるメンバーもいます。会員の中にも数名の経験者がいて、千葉県松戸市にある「千葉西総合病院」がこの方面（心臓病・カテーテル診断・治療）では知られているそうです。ただし、最近、新聞の社会面を賑わした医療法人の傘下ではある様なのですが。

▽蛭川さんの奥様が関係しているネパール女性の地位向上運動を理解し支援する一環として、戒能恵子さんがカトマンズに設立された縫製作業所で作られた布袋が紹介されました。原さんも同様な活動をされていて、毎年、世田谷ボロ市に店を出されています。

▽11月初めの「二橋祭」に、今年は山岳部も出店します。兼松講堂と図書館との中間に位置して、商品は「鶴天」だそうです。「月見の宴」に参加される方も、参加されない方も、是非立ち寄って下さい。

▽佐藤（久）さん、中村（雅）さんは今年もヒマラヤ・トレッキングに出かけられました。インドヒマラヤのザンスカール方面だったそ

平成25年度芦安登山道整備作業報告

小島 和人（昭40年卒）

半後半の変化も楽しい山歩きになります。会社のお仲間にも紹介ください。

作業の概要は以下の通りです。

参加者 一橋山岳会から、本間、小島、高崎

（俊）、佐藤（力）、岡田、宮武、井草のOBと小宮山、伊藤の現役部員の9名が両日参加、芦安ファンクラブから21日3名、22日2名、富士通アイネットワークシステムズ

本年度針葉樹会総会でご承認頂きました「芦安登山道整備」が9月21日22日に実施されました。両日とも15～16名が参加して檜尾峠—高谷山間の従来の登山道の改善に集中して作業し、昨年不評だった同区間に階段、梯子、ロープなどを整備し、歩き易い登山道になりました。これで【夜叉神登山口→夜叉神峠→高谷山→檜尾峠→芦安トンネル東口】の周回路が整備されたことになります。今回作業中にも高谷山から下山ってきてトンネル東口に降りる登山者に出合いました。昨年はなかったことです。冬期にもこのルートが利用されたケースもあったと芦安ファンクラブで言つていました。是非会員の皆様も一度誘い合わせてお出かけください。

朝東京を発つて甲府からバスで夜叉神登山口に向かい、この周回路を使い白根二山を中心とする南アルプスの眺望を楽しんで芦安に下山し白雲荘などで湯につかり一泊して帰るなどお仲間内の懇親に最適かと思います。夜叉神登山口→夜叉神峠→高谷山は大変整備された山道ですが、高谷山→檜尾峠→トンネル東口は山道らしい急峻さも残されていて、前



21日 午前8時半山岳館前に集合。昨年の資材の残り（丸太30本が中心）と本年購入した鉄杭など総計250kgの資材を檜尾峠に歩荷。檜尾峠のすぐ上から階段つくりなどの作業。午後3時にトンネル東口に帰るまで作業。

22日 午前8時半山岳館前に集合。檜尾峠に登り作業開始。この日は丸太も使い果たし、ファンクラブの清水専務理事の指導で自然倒木を利用して階段を作りながら高谷山頂上をめざし、途中二つの梯子段を設置、必要箇所にロープも張りました。この日で一段落つけようと全員が頑張って頂上まで登山道が改善されたのは午後3時でした。夜叉神峠経由で下山、登山口で午後4時半解散。

その他

①高谷山の山頂は枯れ木などが取り除かれ広々しました。檜尾峠への下山口も整備されましたので、「山頂に道標を設置しよう」との提案が出ました。予算の残額を確認の上ファンクラブと相談して来春の登山シーズン前に設置予定です。

②この10か月間、体調不良であった本間会員が厳しい節制に耐え、見事山歩き可能に回

から21日6名、22日5名が参加。

復されました。白雲荘で快気祝をしました。
③今回現役3年の伊藤君が初めて参加され大
変強い体力を披露しました。頼もしい限り
です。4年的小宮山君の跡継ぎとして今後
に期待しましょう。



▼会報128号をお届けします。10月に予定したのですが私の事情と原稿集めに時間がかかり一ヶ月以上の遅れとなりました。遅れたおかげで、最近では大変珍しい廻り目平での学生と針葉樹会員の合同合宿のご報告を載せることができます。現役も3年生が3人になり1年生も加わり、従来の4年生と2年生を合わせると大変な人数になつてきました。学生さんが事故なく登山を楽しめるよう成長するためには針葉樹会の皆さんのご協力が必要で、本間、中村（雅）、藤原会員のご努力による今回のようない合同合宿企画がぜひ必要です。今後とも針葉樹会の皆さんの指導宜しきを得て現役が力強く育つてほしいものです。

（小島）

一般原稿も斎藤、中村（雅）、金子、前神会員から、いずれも心のこもった素晴らしい原稿を頂いており会員の皆さんに喜んでいただけだと思います。斎藤会員の執念の企画と芦安登山道整備が重なつて、斎藤会員には気苦労頂いたようですが素晴らしい山行は皆さんへの素敵なお贈り物になりました。御礼申し上げます。最後ですが中村（雅）さん報告の黒部には私も一緒にしました。4年がかりで狙つた赤木沢遡行が出来たのは前神、兵藤会員の同行があつたからと実感しています。現役も含めて年代を超えて山に一緒する事の楽しさを感じました。

（川名）

ら一年余、朝起きると観天望気をかねてまず奥多摩の山々眺めます。大岳山、御嶽山、雲取山、川苔山……武甲山も見えます。残念ながら富士山は頭だけしか覗けません。その中に青梅丘陵の鞍部の向こう、ほぼ真北に小さなピラミッド形の山がボツンと見えます。何という山なのか、ずっと気になっていましたが、青梅丘陵ハイキングコースを歩いたときに飯能にある越上山と判明しました。冬はわさび田作業も暇なので、近いうちに登つてやろうと楽しみにしています。

（井草）

▼世代を超えて、山つていいな、という思いをこれだけ共有できる場があるのは、本当にすばらしいと、本号を読んで改めて感じました。古稀記念に、挑戦的な山旅を敢えて選んだ斎藤先輩、山頂へ至る道が思い浮かんで、定年後のすみかを定めた金子先輩……。その本当の思いは理解の範囲を超えるとしても、わかる！と思えるのは、山岳部にいたからでしょう。この半年間に、現役女子学生たちと山に行けたことも大きな喜びでした。山が日常とは別チャンネルの世界を用意してくれているのは、どんなときも大きな支えです。また普段、会えなくて、山行を共にした人と、別チャンネルでいつもつながっていると思えることも大きな支えです。そこに山があるから。それだけで、ちょっとありえないような世界への言い訳が成り立つの

■会費納入のお願い
平成25年度（25年6月～26年5月）の会費納入をお願いいたします。
会費（普通会費）は卒業年次に関係なく、一律5000円です。（ただし、昭和29年度以前卒業の会員は従来通り会費免除となります）。また、普通会費のほかに、期間を問わず賛助会費を募集しております。賛助会費は一口1000円で、口数は任意です。

近年、学生部員の増加に伴い山岳部への支援強化の必要性が高まっていますので、その資金手当てのためにも、賛助会費へのご協力をお願い申し上げます。

◎会費納入先

三菱東京UFJ銀行 赤坂支店
口座名 針葉樹会
口座番号 普通4825647

*振込の際、適用欄にお名前と卒年次をご記入ください。

会計幹事 佐藤久尚